

区政改革懇談会の提言について

委員

約 70 名の公募区民により構成

活動内容

平成 17 年度は、世代・社会属性別の 6 つのグループに分かれ、区の目指すべき将来像に関する検討を行い、区長に提言を行った。

会議の開催状況

平成 17 年 7 月 16 日	第一回全体懇談会
平成 17 年 8 月 ~ 平成 18 年 2 月	グループ会議 (延べ 41 回)
平成 17 年 11 月 23 日	中間発表会
平成 18 年 2 月 5 日	提言報告会

主な提言内容

グループごとに産業、教育、福祉、まちづくり、環境、コミュニティーなど様々な視点から提言を行った。

グループ	ポイント (目指すべき将来像)
真紅	「行ってみたい、住んでみたい、顔の見える“あらかわ”」の実現について
瑠璃	「(地)域、生(活)、活(力)、憩、粋」の 5 つのイキの実現について
紫苑	「産業の再生と街の活性化」、「高齢者が元気になるまちづくり」、「教育環境の充実」の 3 つの対応について
茜	「子育て」、「学校教育」、「コミュニティ」、「生活・環境」、「産業」など 8 つの分野の実現について
萌黄	「安全なまちづくり」、「生活環境の整備」、「子どもを育てやすいまちづくり」、「日本の玄関になる荒川区」の 4 つの夢の実現について
山吹	「産業・経済」、「教育・青少年育成」、「まちづくり」、「環境」など 8 つの分野の実現について

荒川区区政改革懇談会 提言書

～荒川区の目指すべき将来像について～

平成 18 年 2 月



目次

荒川区区政改革懇談会委員名簿	1
真紅グループ 提言書	3
瑠璃グループ 提言書	17
紫苑グループ 提言書	29
茜グループ 提言書	41
萌黄グループ 提言書	53
山吹グループ 提言書	63
グループ討議開催状況(参考資料)	75



荒川区区政改革懇談会委員名簿

真紅グループ	瑠璃グループ	紫苑グループ
赤池史有 川口仁志 神保秀久 杉原威史 杉本洋平 田島俊子 田村顕司 田村晴彦 鳥畑拓也 二見亨 高橋優樹 中城正憲	小川順一郎 小倉康彦 梶雅俊 加藤佐一 久保田剛 後藤宏道 澤野修一 島田晴行 長谷川恵子 文村秀哲 三ツ木直樹 吉田忠一	安部義治 五十嵐進 石塚嘉広 伊藤行宏 汲田憲一 桑原勇雄 ◎櫻井善忠 高松俊和 徳本和雄 樋田武 丸島高三 宮島豊 柳原祐之

茜グループ	萌黄グループ	山吹グループ
新井敏夫 秋田恵子 国府田玲子 津村礼子 中村郁子 松岡香子 村上律子 矢嶋薫 柳田記代巳	浅香敏子 石井富江 石黒早苗 牛丸美代子 大貫輝子 車豊子 小林知子 斉藤なみ 佐藤康子 渡辺宏子	飯田正二 市川正夫 岡田正規 尾崎幹男 桜井房一 高見和幸 千葉智祥 津田耕嗣 橋本富夫 前田淳一 吉川赳夫

(◎座長・五十音順・敬称略)



荒川区区政改革懇談会
真紅グループ 提言書

はじめに

真紅グループは 20 歳代から 50 歳代の勤め人を中心としたグループである。

荒川区生まれの住民として、荒川区で働く勤労者としてなど、それぞれの立場、経験から区に住むこと、働くことの良し悪し、これからの区の望ましい姿とその実現への方向について議論を重ねてきた。

1. 荒川区の目指すべき将来像

(1) 荒川区のこれからを考える：将来像の基本的考え方

「あらかわの、これから」を考えるにあたっては、今の「あらかわ」にある問題の発見・解決を考えることもさることながら、50 年後、100 年後の社会全体の姿を考え、その中での「あらかわ」の役割・姿を考える、ということもまた、必要である。

今の「あらかわ」の中のことだけを考え、内向きになるのではなく、未来の全体像の中の「あらかわ」、

未来の首都圏の中の「あらかわ」
未来の日本の中の「あらかわ」
未来のアジアの中の「あらかわ」
未来の世界の中の「あらかわ」

を意識し、未来へ向け、どう「あらかわ」を「創って」いくか、ということも考えることも、また重要である、ということである。

こう考えていくことで将来、「首都圏から、日本から、アジアから、世界から」求められ、また、「首都圏から、日本から、アジアから、世界から」人が集まる「あらかわ」になれる。また、そうなるべく施策や事業を進め、きちんと「首都圏の、日本の、アジアの、世界の」人々の「受け皿」になれる「あらかわ」を実現する必要がある。

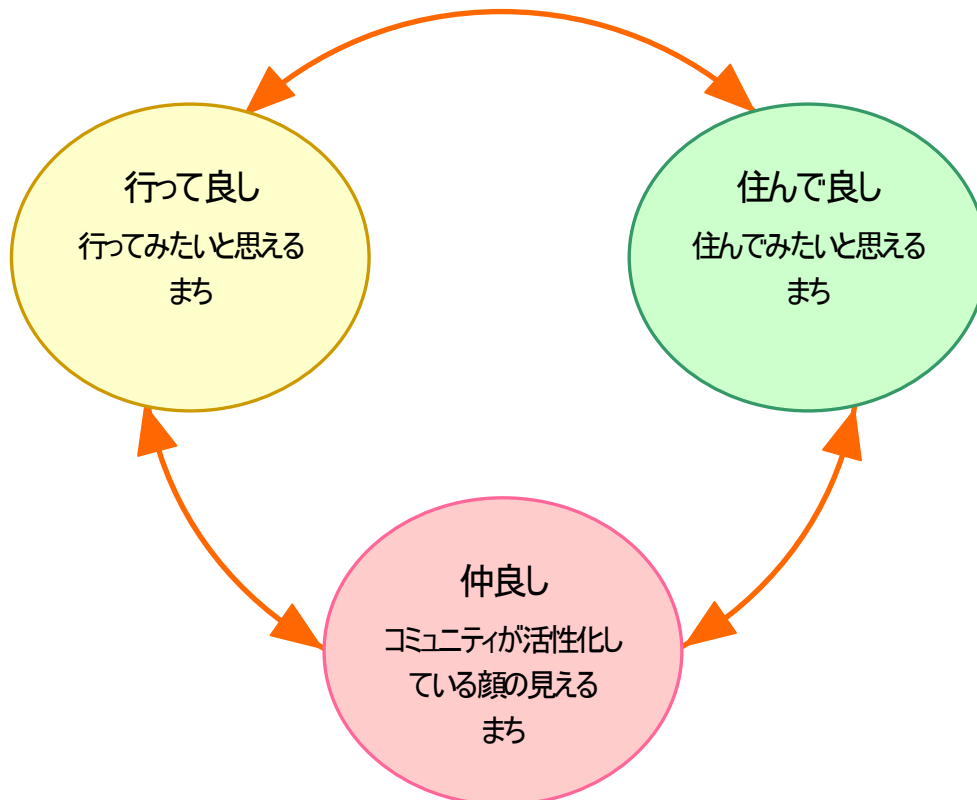
(2) 荒川区の将来像

(将来像)

「行ってみたい、住んでみたい、顔の見える“あらかわ”」に向けて

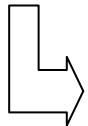
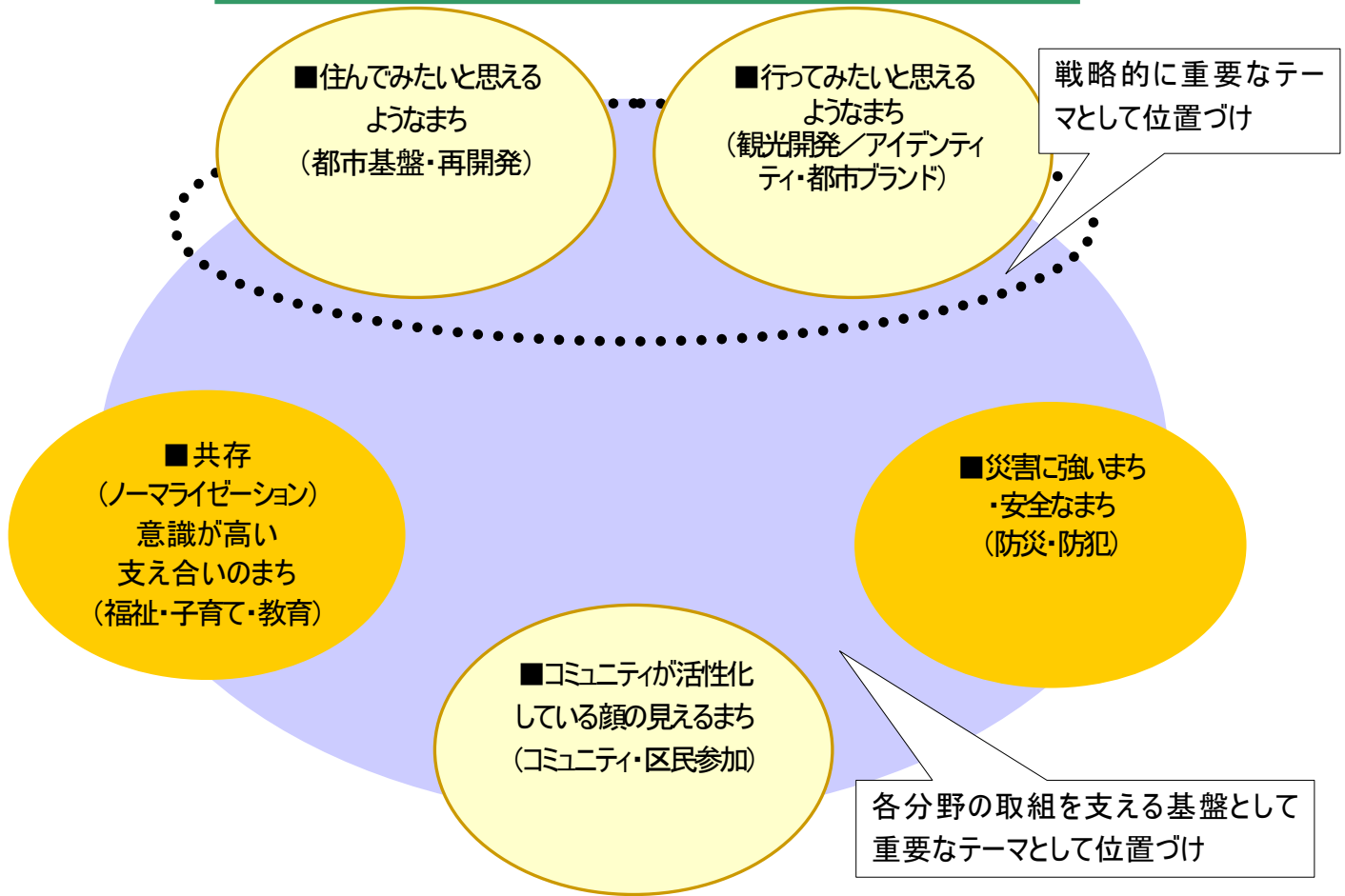
訪れる人が荒川ならではの体験を満喫し、住む人が安心して快適に暮らせるような“あらかわ”を、多様な人と人との触れ合いを通して実現する。

(3つの柱)



- ・荒川区の広域的な立地ポテンシャルを最大限に活かすとともに、再開発をまちづくりの契機として捉え、来街環境、居住環境の整備を総合的・計画的に進めることが重要である。
- ・様々な取り組みを、多様な主体が協力して展開していくために、荒川ならではのコミュニティの維持と充実を図っていく必要がある。

行ってみたい、住んでみたい、顔の見える“あらかわ”



(将来像の実現に向けて特に留意・活用すべき点)

- ・立地ポテンシャルを最大限に活かすとともに、再開発をまちづくりの契機として積極的に捉え、各種都市機能の導入を図る。
- ・荒川ならではのコミュニティの維持・充実を図っていくことが、各分野の取り組みを展開する基盤として重要な課題となる。

2. 荒川区の現状

(1) 再開発・観光開発／アイデンティティ・都市ブランド

- ・ 史跡や下町情緒、日暮里のファッションストリートなど、多様な文化資源を有するものの、広域的な知名度やアピール性に欠けている。
- ・ 今後の再開発もまちづくりの契機として活用し、来街者への魅力づくりが期待される。

良い点・活用資源	改善課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 小説の舞台になる（宮部みゆき、吉村昭等） ・ 下町文化が残るとともに、韓国人が多く東アジア文化を感じる ・ 日暮里（繊維通り、ファッションストリート） ・ 都電の走る下町を感じさせるまち ・ 史跡が多く文化面での可能性を秘めている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ これといったアピールできる魅力がない ・ 広域的認知度が低い ・ 荒川区の特徴が弱い ・ あまり“特色”を感じられない ・ 「暗い」イメージがある ・ 集積エリアとしての魅力不足、上野と北千住のエアポケット

(2) 立地ポテンシャル

- ・ 都心への近接性はもとより、成田空港やつくばとのアクセス利便性の高さなど、交通利便性が高く、恵まれた立地ポテンシャルを有している。
- ・ 都心至近のベットタウンとして定住人口の増加に取り組むなど、立地ポテンシャルを最大限に活かしたまちづくりが期待される。

良い点・活用資源	改善課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通の利便性が高い：鉄道（JR・東京メトロ etc.）の路線が多く、経済や人口増加の可能性に富んでいる。 ・ 都心への交通アクセスが良い 	<p style="text-align: center;">—</p>

(3) 都市基盤・ハード

- ・大規模開発のなされた地域では、道路やオープンスペース等の都市基盤整備が進んでいるが、その他の地域では、住宅が密集し、道路も狭小である地域が多く、改善が必要である。
- ・自転車用の空間が不十分で、歩行者交通に支障が生じている。

良い点・活用資源	改善課題
<ul style="list-style-type: none">・アクロシティ、白鬚西地区：大規模開発により道路など基盤整備が進んだ・街並みがキレイ・西日暮里駅前の放置自転車の減少	<ul style="list-style-type: none">・住宅密集：道幅が狭く、火災のときが心配・景観の悪さ・(大型) 開発と周辺地域との調和がとれていない・遊び場、緑、空き地空間が足りない・道路が狭小・複雑で主要道は渋滞している・通学路が危険・自転車のマナーの悪さ・自転車の駐輪スペースが少ない・主要道で自転車が走りづらい

(4) 安全・安心

- ・木造住宅密集地域が多い荒川区では、災害に備えたまちづくりが必要である。
- ・また、犯罪が凶悪化する傾向を示す中で、防犯に向けた取り組みは、地域住民が協力して当たることが重要だが、高齢化などでコミュニティ機能が弱まっている面もある。

良い点・活用資源	改善課題
<ul style="list-style-type: none">・小学校にシルバー人材センターの方が安全推進委員として常駐・地域の防犯のリーダーとなる人材を育てるため、平成 17 年度より「防犯養成講座」を実施	<ul style="list-style-type: none">・木造住宅地域では一般に防災への関心が高いが、地域により関心度が異なる・放置自転車の影響で消防車が入れない

(5) 福祉・介護

- ・福祉や介護面での課題解決に当たっては、区民の立場から提案し、実行に移せる手法も多く、実現化の可能性を探っていくことが求められる。

良い点・活用資源	改善課題
<ul style="list-style-type: none">・〔参考〕高齢化率が23区で3番目に高い・一人暮らしの高齢者対象の学校給食を活用した会食サービス（おたっしゃランチ）	<ul style="list-style-type: none">・独居老人が増えている

(6) コミュニティ・区民参加

- ・祭りをはじめ、お互いの顔が見え、気軽に声をかけられるコミュニティが残っていることは荒川の住み良さを支える大切な資源である
- ・一方で、新住民の増加などによりコミュニティが希薄化している面もある。各分野の取り組みにもつながる課題として、若い世代の参加も含め、コミュニティの充実とともに区民参加の拡大を図っていくことが求められる

良い点・活用資源	改善課題
<ul style="list-style-type: none">・顔の見えることがコミュニティの基本。区の規模が小さく、比較のお互いの顔が見えやすい・まだまだ“生活”の実感があり、気さくな感じがする・昔ながらのコミュニティの残る地区が多く住民意識も高い・祭りが盛んで地域への愛着がある	<ul style="list-style-type: none">・店子には情報が回ってこない・若い人の関心が少ない・誰が居住者かよくわからないことがある・コミュニティは重要だが、昔からの町会と新しいコミュニティの共存は、難しい面もある・荒川区は下町気質がある反面、排他的なところがある・子供がいない人は、町会等のコミュニティに参加しづらい。・コミュニティに属さない、エアポケットに入ってしまう人がいる・都市計画の負の側面として新興住宅の多い地区のコミュニティが確立されていない →住民参画の上での課題・コミュニティ情報の提供や共有化が必要

3. 分野別のまちづくり方向

(1) 行ってみたいと思えるようなまち（観光開発／アイデンティティ・都市ブランド）

◆基本的な考え方

○荒川区の売りとなる、よりインパクトの高い特色・特徴づくりに向け、歴史文化資源などの活用を図るとともに、対外的なPRの充実を図る。

◆対応の方向例

観光基点の形成

- 日暮里駅の観光基点化：観光案内所の設置、パンフ配布、多言語対応の徹底等（スカイライナー停車駅という条件を活かす）
- 町屋駅の観光基点化：パンフ配布等

観光資源の発掘・開発・強化

- 下町文化と東アジア文化を体感できるまちづくり
- 各種歴史文化資源の発掘・活用：歴史ファンが訪れるまちづくり
- 日暮里ファッションストリートのにぎわい拠点化
- 三河島コリアンタウンのにぎわい拠点化
- コツ通りのにぎわい拠点化
- 荒川遊園周辺のにぎわい拠点化。遊園周辺に「荒川もんじゃタウン」を形成、水上バス運行（荒川遊園～浅草～月島～日の出棧橋）
- 隅田川の観光資源としての活用。公園整備等
- 都電荒川線の観光資源としての活用、及び各にぎわい拠点や商店街等への移動手段としての活用
- 解剖学発祥の地として南千住をPR

(2) 住んでみたいと思えるようなまち（都市基盤・再開発）

◆基本的な考え方

○住宅密集地域の再整備に地域住民の合意形成を図りつつ取り組んでいく必要がある。

○都心至近のベッタウンとして新たな居住者を呼びこむとともに、従来のまちの雰囲気やイメージを残した整備や、大規模開発ゾーンと周辺ゾーンとのメリハリや調和に配慮したまちづくりが必要である。

○自転車空間のあり方を検討しつつ、人中心の道路網整備や公共交通中心の交通体系の整備が必要である。

◆対応の方向例

地区まちづくりの推進

○まちづくりビジョンの立案、策定やまちづくりルールの整備

交通体系の整備・確立

○道路網の再構築と生活道路の歩行者優先化、幹線道路と生活道路のメリハリ

○自転車空間の確保や、自転車道・駐輪場など、自転車用インフラの整備

○東京都と連携しロードプライシング（交通需要管理等のために、道路において賦課金を徴収）を導入

自然の保全や環境対策

○公園や緑の適切な配置、建ぺい率低減による「息苦しさ」の低減、その他適切な景観設計

○建造物等の省エネルギー化、風力・太陽光他、新エネルギーの導入

(3) 災害に強いまち・安全なまち（防災・防犯）

◆基本的な考え方

○災害に強いまちの実現に向け、都市環境の改善などハード面の取り組みや、災害時の連絡や復旧体制の整備などのソフト面の取り組みを進める必要がある。

○犯罪のない安全なまちの実現に向け、区民、学校、行政などが連携し、地域ぐるみの取り組みを進める必要がある。

○コミュニティを強くしていくことがセキュリティの強化につながる。

◆対応の方向例

災害に強い都市環境の形成

○木造密集市街地の改善

犯罪を防ぐ環境整備

○不審者を防ぐ防犯システムや学校への監視カメラ設置

○人の目による監視の仕組みをコミュニティも活用してシステム化

防災・防犯コミュニティの形成

○自治会・町会を軸とした防災・防犯コミュニティの形成と関係主体のネットワーク強化

○子どもも含め参加者が楽しめるイベントを訓練に取り入れる

(4) 共存（ノーマライゼーション）意識が高い支え合いのまち（福祉・子育て・教育）

◆基本的な考え方

- 障がい者や高齢者をはじめ、だれもがいきいきと暮らせるような地域社会づくりが必要である。
- 子どもの頃からの教育を充実するとともに、子どもと高齢者など、多様な交流の場をつくっていく必要がある。
- 再開発で人口増加が予想される中で子育てや教育環境を充実する必要がある。

◆対応の方向例

社会的弱者への支援

- 独居老人の安否確認体制やお年寄・障がい者情報の自治会等での共有
交流を通じた支え合いの仕組みづくり

- 子どもと高齢者が日常的に気軽に交流できる施設の整備（教育の場、託児所、コミュニティスペースとして機能）

(5) コミュニティが活性化しているまち（コミュニティ・区民参加）

◆基本的な考え方

- お互いの顔が見え、地域の課題解決のために相互に支え合い協力し合えるような地域社会の実現に向け、自治会・町会活動をはじめ、各種ボランティア活動、世代間交流など、多様なコミュニティを形成していく必要がある。

◆対応の方向例

区民の交流の場づくり

- 井戸端会議のように気軽に集まれる場づくり
- グループホームや学校などを活用した日常的な世代間交流の場づくり

自治会・町会の機能充実

- 新住民向けの新たなコミュニティづくり
- 幹部をトレーニングする機会・場の提供
- 自治会・町会情報の提供による参加者拡大

テーマ型コミュニティの充実

- 趣味や文化活動などを含めたテーマ型コミュニティ活動の支援

2) 基本構想の実現に向けた課題

上記の、基本構想に求められる意義と役割を踏まえ、基本構想に盛り込まれた内容の実現を図っていく上で、各主体に求められる役割（課題）は以下の通りである。

「行ってみたい、住んでみたい、顔の見える“あらかわ”」に向けて

区側の課題

- ・荒川区の改善には区だけでは限界→区民とのパートナーシップが必要
- ・区民の意見を反映させるための取り組みが必要
- ・区政の透明性と健全性の確保が必要

区民の課題

- ・地域の責任ある主体としてコミュニティへの参画が必要
- ・区政の透明性とニーズの反映に向けた政策への関与が必要

地域の課題

- ・共存の実現、コミュニティの再生
- ・地域ぐるみでこどもの教育、学校の安全づくりを推進する
- ・災害に強い、犯罪のない安全まちをつくる
- ・地域で支える福祉の必要性（独居老人など）

※区あるいは区民単独では実現困難な課題も多い

（各主体の役割分担の検討）

- ・区、区民、地域など、課題解決に向けた各々の主体の役割分担を検討していく必要がある。

（2）区民と区との協働の推進

区民のニーズが多様化し、かつ高度化する中で、区が単独でまちづくりを進めるだけの対応には限界が生じており、区民と区とが相互に理解を深めながら、各々の役割を果たしていく、協働の充実を図る必要性が高まっている。

(3) 協働の推進に向けた提案

1) 協働の推進に向けた基本方向

①目標の明確化と共有

区民と区とが、協働により達成しようとするまちづくり目標を明確化し、共有していくことが協働を推進していくための前提となる。

②コミュニケーションの場と機会づくり

目標の明確化と共有を含め、協働を推進する上では、多様な主体間のコミュニケーションの充実を図っていく必要がある。

区と区民をはじめ、区民相互、区民と事業者など、テーマに応じて多くの主体が、対等な立場で、お互いへの理解を深めながら話し合っていけるような、コミュニケーションの場と機会をつくっていく必要がある。

③区の基礎体力としてのコミュニティの充実

区民の関心が高まっている防災・防犯面の対応をはじめ、様々な課題解決に地域ぐるみで取り組んでいく上で、コミュニティの充実が基本的要素として重要である。

このようなコミュニティの充実は、いわば、荒川のまちづくりを推進するための基礎体力として位置づけられるものである。

④モデルプロジェクトづくり

協働を推進していく上では、区民と区とが相互の理解を深めるとともに、実績をつみ上げながら、取り組みの充実を図っていく必要がある。

段階的な取り組みを初動期において牽引していく、モデルプロジェクトを検討することが求められる。

2) 協働のツール及びプロセス（例）

問題発見と意識醸成

- ◆協働の第一歩は区民の地域への関心を得ることからはじまる。イベントなどのコミュニケーションツールを活かし、区政に対する問題関心、地域における当事者意識を醸成する。

（日常のコミュニケーションづくりが地域、区政への関心につながる）

参加の拡大

- ◆地域や区政の課題に対する関心を得た上で誰もが参加できるパブリックコメント、ワークショップによる発言の機会を増やし、意見を反映させる機会をつくる。

（地域の問題の中で関心の得やすいテーマにより、勉強会や意見提言の機会をつくること、区政参加や地域参加のきっかけとなる）

合意形成

- ◆上記「参加の拡大」で示した意見を反映させる機会をつくる他、地域の問題において、区民同士の合意形成を図る。

（より区民の意見を反映させるツールをつくり、区政参加のインセンティブを高める）

実践への展開

- ◆政策課題ごとに協議会をつくり、地域において得られた合意形成について、区と区民による協議の場をつくる。まちづくり協定を結び、地域ごとに公のルールをつくる。得られた合意について実際に実施し、地域活動に対する相互の責任の共有化を図る。

（区民の責任意識の醸成）

（4）情報発信の充実

荒川区の存在感を高める情報発信活動を充実

荒川区の資源の発掘とPR

荒川の良さを外部により強く印象づけていけるように、荒川区の有する資源の発掘と活用を図り、効果的にPRしていく必要がある。

重点テーマの共有とPR

荒川区が重点的に進めていくまちづくり施策を、区と区民とが共有しながら、スローガンのように外部に対してPRしていく必要がある。

荒川区区政改革懇談会
瑠璃グループ 提言書

はじめに

瑠璃グループは30歳代から40歳代のメンバーが多い、自営業の経営者などが集まっているグループである。

荒川生まれの住民として、この地の実家を継いだ経営者として、また区の支援を受けたベンチャー起業家として、それぞれの立場、経験から区に住む、働くことの見解を出し合い、これからの区の望ましい姿とその実現への方向について議論を重ねてきた。

1. 荒川区の課題

- ・瑠璃グループでは、荒川区について、「派手さはなくあまり知られていないが、得がたいコミュニティなどがあって住みやすい。」と評価している。一方でコミュニティのネットワークが高齢化、新住民の流入、人々の意識の変化により弱まっており、福祉、防災面で課題となっている。また全般に荒川区はPR下手で、そのために産業や街の魅力が高まらなかったり、行政と住民のギャップがあったりする点も課題だと考えた。

荒川区の主要な課題

	現状認識（良し悪し）	注目したい点
まちづくり	都心の利便、意外に緑が多い、住みやすい	商工住が混在していて、いろいろな機能がある
		交通アクセスの良さ
		住みやすい一方、目立つ施設等がなくアピール材料がない
		コミュニティバスが導入されている
		下町コミュニティのよさがある
		景観のよいところがある
		大きな公園が多い
	古くからの街ゆえ、狭さ、危険を感じる	交通上バリアが多い
		観光・住みやすさのアピールが足りない
		歩道の歩きづらさ（モノが置いてある）
		駅の周辺を良くすれば印象が違ふ
		街並みに工夫が足りない
		放置自転車が危ない
		防災上の不安
福祉	下町コミュニティの人の結びつき	よいコミュニティが高齢者を支えていたが、これからはそうでなくなる不安
	交通上のバリアが、高齢者などには危険を感じる	交通のバリアは、なかなか直らない不満がある

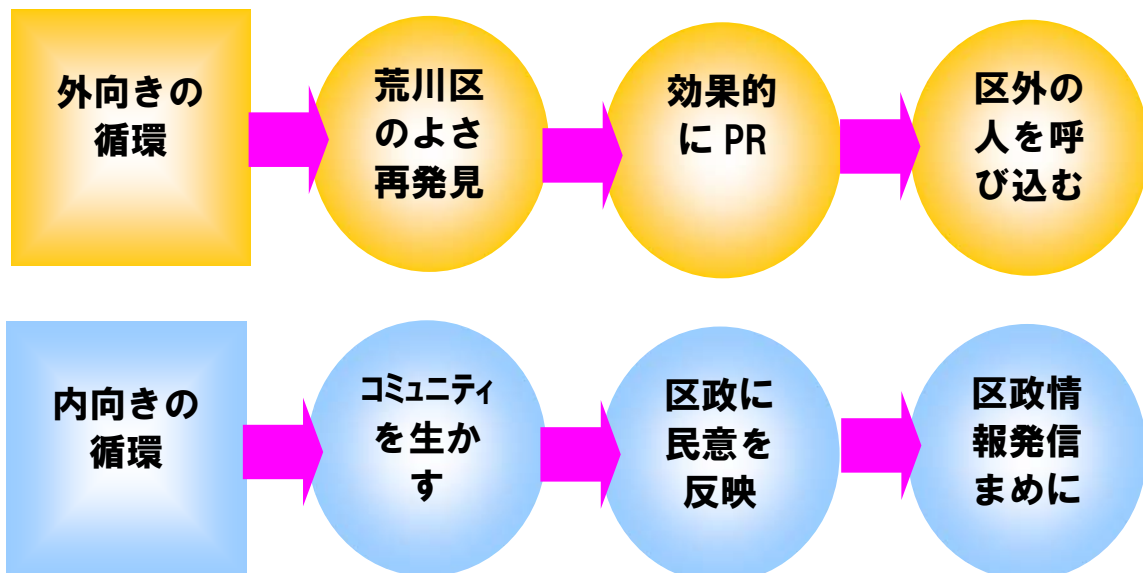
荒川区の主要な課題

	現状認識（良し悪し）	注目したい点
産業	商・工の機能がある	既存商業・工業についてよく知られていない
	伝統的な職人の産業が残っている	伝統（職人）の伝承が難しくなっている
	新しい産業に乏しい	ベンチャー立地を模索する必要がある
	観光資源になりうるものがある	他の区などに比べ観光アピールが弱い 人の動きを活発にできればよい
情報発信	区の情報発信に問題あり	区政サービス等の情報をもっと身近に知りたい
		行政だけでなく区民のセンスをふまえた情報発信ができていない
		区外に対して観光・住みやすさのアピールが必要ではないか
教育	児童の区外流出	学力のさらなる向上が必要
		学習面において競争できる環境（台東区のような）がない
		親の欲しい情報を発信していない
		地域の父兄の意見を学校がもっと聞くべきである
防犯・防災	子供の防犯	防犯のために機械やシステムを利用するのはいいが、人との連携が一番の抑止力になるので、なるべく機械には頼らず、荒川区の横のネットワークを生かしたい
		公衆電話が少なくなり、携帯電話を利用しない高齢者や子ども達は不便である
		共働きや多忙の家庭は防犯パトロールに参加できない場合が多く、負担になっている
		「わがまちあんしん 110 番」シールを配布していると聞いたが、一般家庭や子ども達に伝わっていない
	防災	マンション等の新しい住民の人達には、町会等に参加しておらず連携が難しい

2. 荒川区を変えるストーリー

- ・コミュニティのよさを活かし、人が活発に動く活性化した街であるためには、住民が本気で荒川のよさを認識し、区外に発信・PRしたり、区政に意見をしていくことが必要である。
- ・区外の人を呼び込んで区の活力を維持したい。荒川のいいところ、魅力について、区民すらあまり認識していないのが現状である。まずは自分たちで荒川のよさを再発見して、区を楽しんでいきたい。そして、こうした魅力を効果的・総合的にPRしていくことで、買い物、掘り出し物、ビジネスチャンスなどさまざまな人の流れと需要を産み出していきたい。こうした循環を作っていくことが必要だ。
- ・一方で区民は区民として、変わっていく必要がある。コミュニティづきあいをもとに、頼まれたらいやと言わずに助け合っていく精神を取り戻していきたい。ただ時代は変わっているから、新しい仕組みは必要だろう。しかしキ！な心、人とのつきあいなしに行政サービスだけに頼るのは難しくなる。そして、こうしたコミュニティに解決できないことをしっかり行政に意見していく。区はそれに応えて、対応や結果をまめに公表する。こうした循環が必要だ。

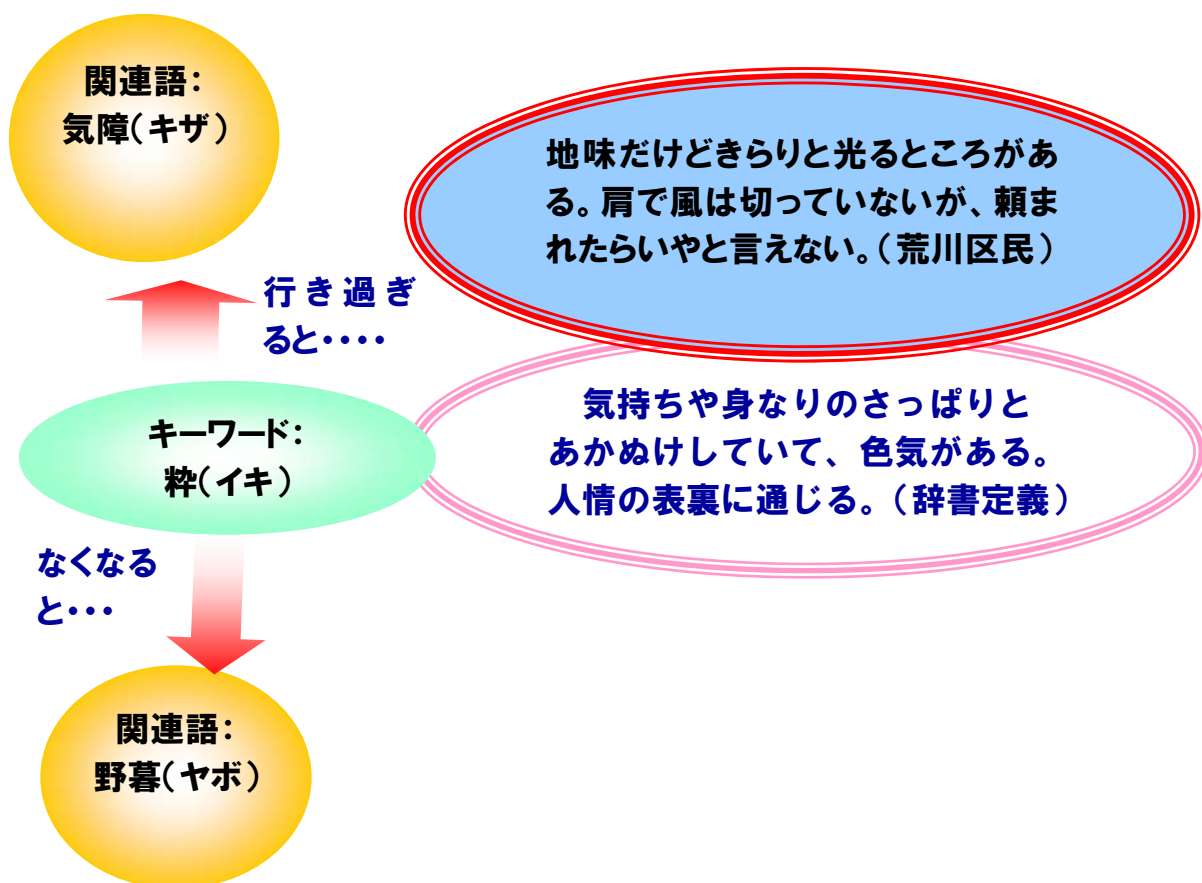
荒川区が変わっていく循環



3. 荒川区を変えるキーワード

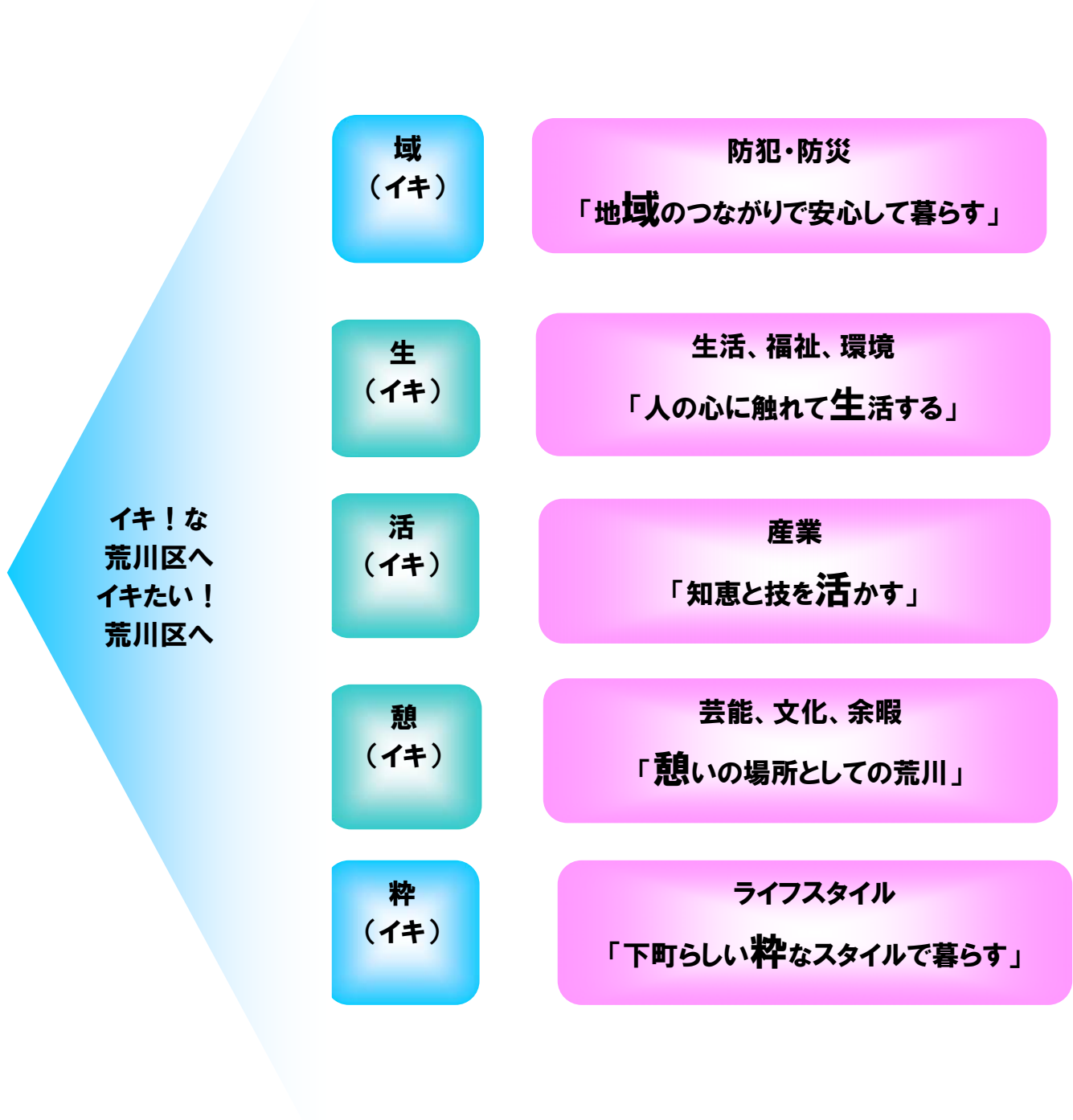
- ・グループでは、コミュニティや住みやすさの源を考えるうち、「粋（いき）」という言葉にたどり着いた。辞書によると「気持ちや身なりのさっぱりとあかぬけしていて、色気がある。人情の表裏に通じる。」の意。さらに、行き過ぎると気障、粋でなくなると野暮になると言われる。
- ・もともと荒川区にはこうした精神が根付いている。
～地味だけときらりと光るところがある。肩で風は切っていないが、頼まれたらいやと言えない。～
- ・もし住み働く人の認識や心のルールが変われば、街の活力が変わってくるのではないか。それなら荒川区はこの「イキ」の魅力でいこう、とグループでは一致した。

荒川区の「イキ」の定義



4. イキ！な荒川区プラン

・「粋（イキ）」に関連して、荒川区の生活全体をいろいろな「イキ」で表わし、実現に向けた方向付けを以下のように考えた。



4-1. 域

**域
(イキ)**

**防犯・防災
「地域のつながりで安心して暮らす」**

- ・ JR線のガード下のライトアップなど、危険を誘発する暗闇をなくす明るさ環境の整備。
- ・ 祖父母世代が参加する、子供の交通・防犯面の安全確保。
- ・ 防犯上何かあった際、かけ込める家の普及。
- ・ 雨水を利用するシステムを導入して、かつ親水公園等に利用して子供の遊び場をつくる
- ・ 「荒川区おんぶ隊（注）」の仕組みの普及。

（注）荒川区おんぶ隊：区民が登録して、災害時に1人暮らしなどの体が不自由な高齢者や障害者をおんぶして救助する。

4-2. 生

**生
(イキ)**

**生活、福祉、環境
「人の心に触れて生活する」**

- ・ マンションやアパートの新しい住民を含めた町会の形成。
- ・ 町会のネットワーク、行政による一人暮らしのお年寄りの把握と声かけ活動。
- ・ 首都大学東京荒川キャンパス（医療・福祉学）を中心に小、中、高校の授業の一部を大学で行うプログラムをつくる。
- ・ 学校によい先生を誘導できる異動の仕組みを検討する。
- ・ 福祉体験広場（北区）や荒川自然公園、尾久の原公園、汐入公園等を使用した学外学習の実施。
- ・ 子育て支援所、子供の遊び場、託児、宅老所の増設。
- ・ 寺社や銭湯の複合用途としてデイサービス化の支援をする。
- ・ 商店街の空き店舗等を活用した小規模多機能な民間資本のデイケアホームの設立支援をする。
- ・ 交通のバリアに関して、住民の投票等により早期改善する場所を決める。
- ・ 世代別区報の発行、区報のメールマガジン化（注）などを推進する。

（注）メールマガジン：メールマガジンは、発信者が定期的にメールで情報を流し、読みたい人が講読するメールの配信の一形態である。

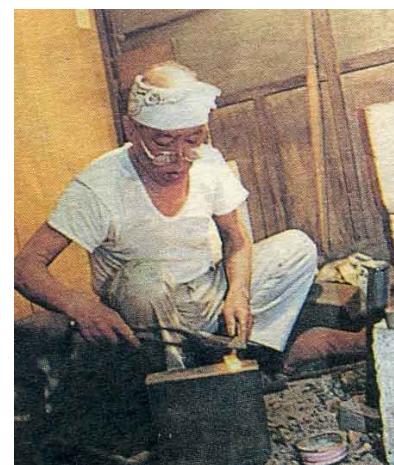
4-3. 活

活
(イキ)

産業
「知恵と技を活かす」

- ・「(仮) 荒川バウハウス (注)」(工芸デザイン学校) の設立 (区内には「荒川マイスター」をはじめとする優れた技能を持っている職人が多く、中には区外の美術大学で講師として迎えられている方もいる。そうした方々を講師として迎え学校で教べんをとってもらい、それぞれ工房を設け新しい製品をつくり、その収益で学校運営や後継者育成を図る。地域の工場との連携を図り、技術、人的交流の核となる)。
- ・町工場再生の手立ての一つとして、「アトリエ (工房) 化計画」を考える。これは高い技術を持つ職人とそのサポートをするデザイナーをつけ、そのコラボレーションの上、既存の枠組にない新しい有益な製品をつくり、新しい魅力を作り上げる。このプロジェクトは上記とも連動する。
- ・「(仮) 荒川 WALKER」発刊などを推進。
- ・区内学校で、伝統産業の体験授業等を取り入れる。
- ・粋な商慣習を学ぶ社会人向け研修会の実施。
- ・商店等へのインターン授業、実験店舗の試みをする。
- ・支援企業や個人からの融資、人的支援システムをつくる。
- ・専門書の充実した大きい書店の誘致。

(注) バウハウス: ドイツで 1919 年に設立 (現在は閉校)。主として建築家や芸術家が、職人の技術的、芸術的価値に着目し、その技能と新しいデザイン思想を融合させ、機能性と美を追求した。多くのマイスターを輩出し、現代のデザイン潮流にも影響を与えている。



4-4. 憩

憩
(イキ)

芸能、文化、余暇
「憩いの場所としての荒川」

- ・3区（荒川、文京、台東）の芸能・文化伝統を合わせた観光ルートの開発と、地域バスの連携、ミニツアーの実施。
- ・落語講座の開催、地元のお寺を借り怪談話の落語会等を開催。
- ・TVドラマの撮影場所になったスポット（場所）をPRして人を呼び込む。
- ・地元の知る人ぞ知るおいしい店などを紹介。
- ・あらかわ遊園とその周辺を「テーマパーク化」し、都電駅～遊園の一方通行でなく、地域に回遊性を導入する。例えば、日暮里の駄菓子屋横丁のようなものをこの地域に移設したり、下町グルメ（もんじゃ、お好み焼き、あんみつなど）ストリートを形成したり魅力をさらに高める。また、遊園から墨田川までに続く大正時代の旧レンガ工場跡地のレンガ塀の修景事業による「歴史の散歩道」としての整備もこの一環として行う。
- ・「第2江戸東京たてもの園」（注）の創設〔再開発等で使われなくなる伝統木造家屋（商店、銭湯、料亭、蔵などの集合体）〕。
- ・童話（メルヘン）文学コンクール、和楽器（琴、三味線など）の定期演奏会などの関連行事の開催。
- ・南千住地区では、汐入地区の平成の近代的な街づくりに始まり、南千住駅を経て、コツ通りを「昭和レトロなまちづくり」をコンセプトにし、千住大橋を経て、北千住の松尾芭蕉や蔵のコンセプトとリンクさせる。
- ・隅田川を環境文化の学習の場にし、「川の手」の文化の向上を図る。



（注）東京たてもの園：東京都墨田区の JR 両国駅前にある江戸東京博物館の分館として、東京都小金井市の都立小金井公園内に設置された野外博物館である。

4-5. 粋

粋
(イキ)

ライフスタイル
「下町らしい粋なスタイルで暮らす」

- ・日暮里繊維問屋街で、個人的に裁縫をしたいがミシンのない人や子供の入学・入園準備をひかえた父母を対象にした裁縫教室の開催。
- ・若者向け和装教室の開催。
- ・将来の日暮里駅近辺の発展から、その周辺地域の活性化を考え、工場跡地などの広い後背地の活用を考える。
- ・服飾系、美容・理容系の専門学校を多数誘致する。
- ・SOHO支援事業を展開する（地元企業・職人・デザイナーとのコラボレーションの促進）。



5. イキ！な荒川実現のアイデア

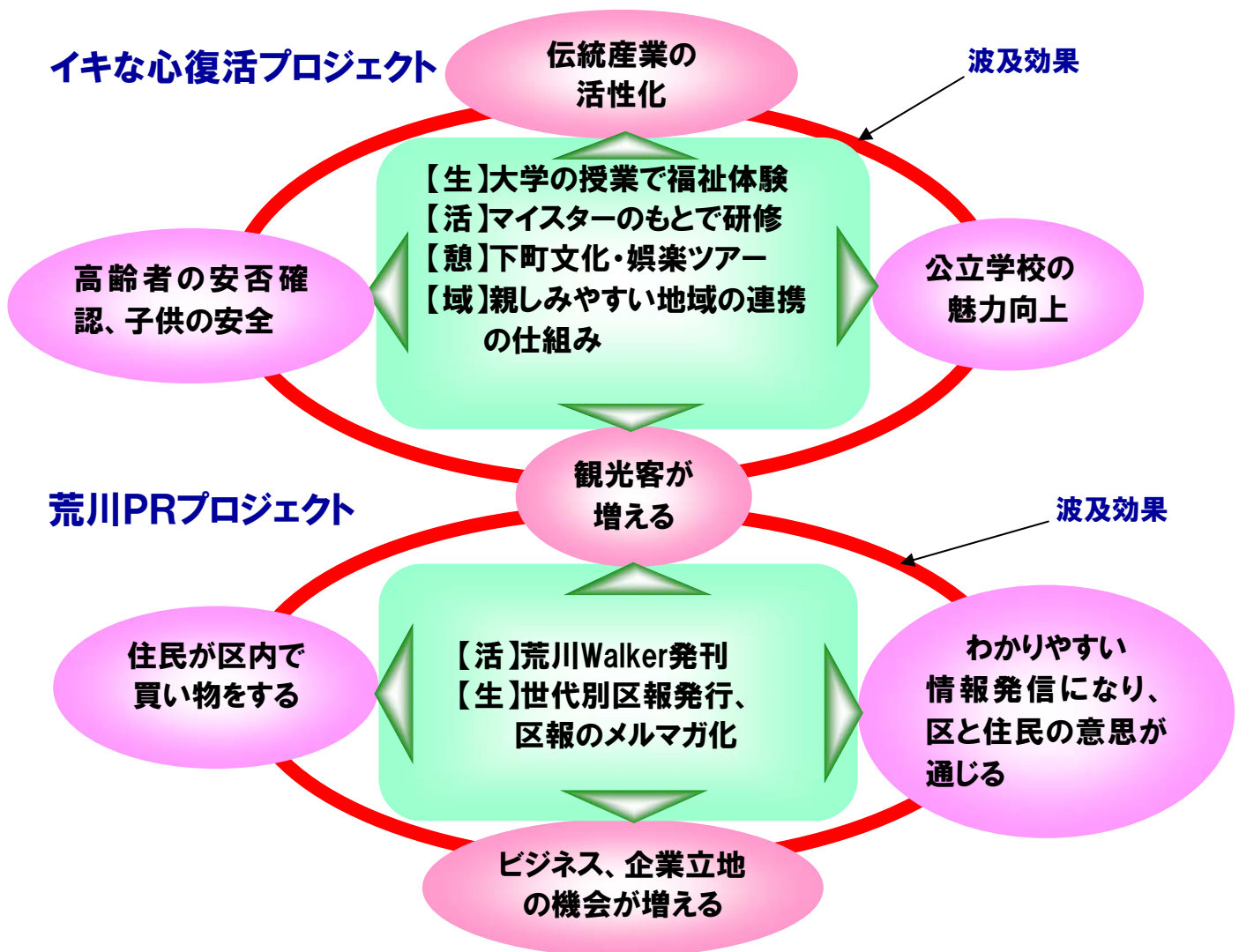
以上、荒川区の生活全体をいろいろな「イキ」で表わしてきたが、グループでは、これらがばらばらに実施されるのではなく、連携したトータルな施策とすることで波及効果があらわれると考えている。以下は統合的な施策のアイデアである。

【イキな心復活プロジェクト】

・荒川の粋な精神を観光の目玉に、ビジネスのマナーに、教育に、そして助け合いに活かさない手はない。古くからの商工業者の方々に講師として活躍していただき、区民もその心を改めて学ぶ。

【荒川PRプロジェクト】

・荒川のよさをさまざまなメディアを通じて、外部にPRして、外の人を呼びこみ、活発で魅力ある働く場にしていく。また区政と住民のコミュニケーションを活発にして、安心や改善が感じられるようにする。





荒川区区政改革懇談会
紫苑グループ 提言書

はじめに

この提言は、主に50～60歳代の自営の経営者から構成されている紫苑グループが、昨年7月から8回にわたって区政改革懇談会において議論を重ねてきたものである。長年荒川区に住み慣れた経験や愛着心、そして豊富な人生経験をもとに、荒川区の現状や問題点、課題、対策案まで、できるだけ具体的な議論を重ねてきた。

●討議にあたっての問題認識

討議していくにあたり、以下の点が重要と考えた。

- ・単なる理想ではなく、現実を踏まえた荒川区の将来像を考える。
- ・区の施策等をまんべんなく検討するのではなく、我々が重要と思う問題に絞って具体的に検討する。
- ・区に提言することは、区と区民との本来のあり方からみて重要なことと捉えるとともに、提言にあたっては、メンバー一人ひとりが区長になったつもりで討議を行なう。

●この提言をまとめるにあたって

上記の討議を経て提言をまとめるにあたり、以下の点を考慮した。

- ・抽象的な理想論ではなく、できるだけ現実に根ざした提案としたい。また遠い将来の夢のみではなく、直近のやるべきことも盛り込む。
- ・現行の基本構想の焼きまわしではなく、我々の訴えたいメッセージを強く打ち出し、荒川区の今後の新たな展望に向けての一助としたい。
- ・よい意味での社会モデル（縮図）のような提案、先見の明のある「荒川型」というのをつくりたい。

1. 荒川区の取り組むべき課題

●こうなってほしいまちの姿

各メンバーからの意見をまとめると次のとおり。

- ・安全で安心できるまち
- ・住みやすいまち、特に若い人が住みたくなるまち
- ・安心して子育てできるまち
- ・教育のレベルが高いまち
- ・お年寄りが元気で活動しているまち
- ・差別がなく、ハンディのある人にやさしいまち
- ・回遊できるまち
- ・地場産業がさかんなまち
- ・伝統的技術のある職人がいるまち
- ・先端産業誘致により知的企業群のあるまち
- ・気さくな下町の情緒が引き継がれているまち
- ・区民がふれあえる場が確保されているまち
- ・地域活動がさかんなまち
- ・区民と行政とが本音で交流し、共通の目的が達成できるまち

●荒川区の課題

上記のような、なってほしいまちの姿を達成するために、荒川区で取り組む課題はどのようなことかについて、区が置かれている現状、区を取り巻く環境の変化などを踏まえ検討した結果、次の2点が最も緊急度が高く、重要な課題として考えられる。

重要課題1：財政基盤の強化・確立

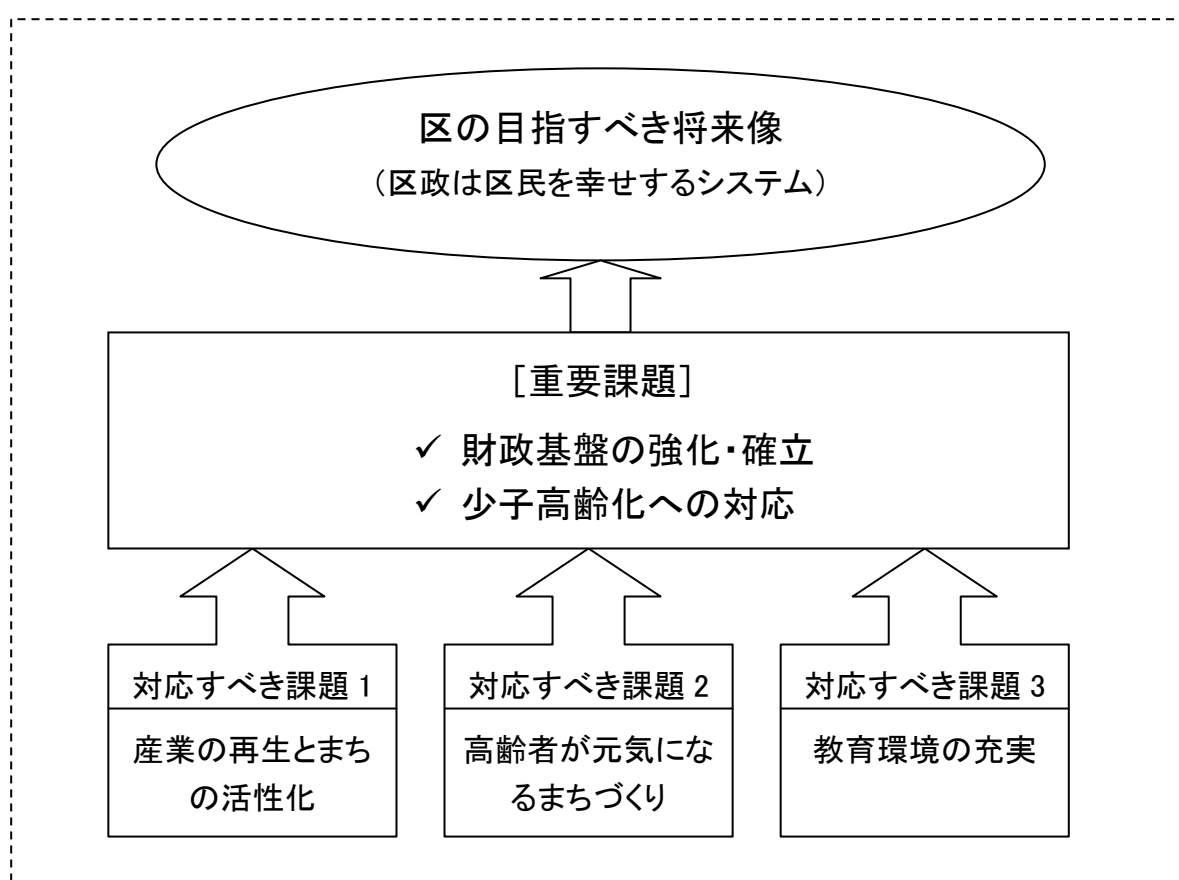
近年の自治体を取り巻く環境を踏まえると、当面の現実的な課題は財政基盤の強化・確立（国・地方を含めた財政的な危機状況をいかに脱出するか）である。

重要課題2：少子高齢化への対応

荒川区の少子高齢化の現象は23区の中でも顕著である。今後、少子高齢化がますます進展し、区の財政や政策、区民の生活へ多大な影響を与えることが予想される。

以上の重要課題を解決するためには、次の対応が必要と考える。

- ✓ 財政基盤の強化を図るためには、歳入の増加（自主財源の確保）と歳出の抑制が不可欠である。歳入を増やすためには、産業の再生やまちの活性化が不可欠である。
- ✓ 高齢化社会へ対応するためには、高齢者が元気になる、活躍できるまちになることが必要である。また、元気な高齢者が増えることは、区の歳出抑制にも貢献する。
- ✓ 少子化に対応するためには、こどもを産めるまち、そして安心して育てられる魅力あるまちになる必要がある。あわせて豊かな人材を育てることができる環境を確保することがきわめて重要である。そのため、教育環境の充実に力を入れる必要がある。



区が目指すべき将来像に向けて、上記以外にも取り組むべき課題はあると考えられるが、紫苑グループにおいては、総花的に提案をするよりも、上記3課題が特に対応すべき重要な課題と考え、これらをもとに具体的な検討を行なった。

また、これらの対応すべき課題は、高齢者が元気になるるとまちが活性化するといったように、お互いに関連している面がある。

2. 産業の再生とまちの活性化のために（対応すべき課題1）

●基本的な問題認識

まちを活性化させるためには、荒川区の強みを活かし、弱みを克服すべきである。

【荒川区の強み】

- ・都心に近く職住近接のメリットがあること
- ・交通網が発達し交通の便がよいこと
- ・下水処理が発達しているなど製造業が立地しやすいこと など

【荒川区の弱み】

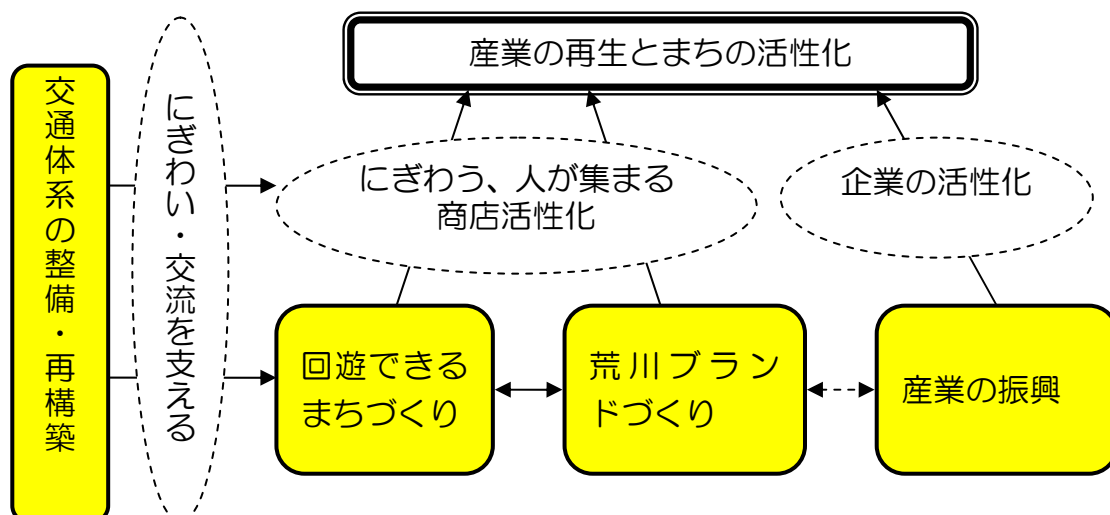
- ・駅が多いといった交通のポテンシャルをまだ十分に活かしきれていないこと
- ・隅田川など区が有している資源を十分に活用できていないこと
- ・対外的に区の宣伝や売込みが下手であること など

●取り組み方針

- ▶ 荒川ブランドづくりを進める
 - ▶ 回遊できるまちづくりにする
 - ▶ 交通体系の整備・再構築を進める
 - ▶ 地場産業や新規産業などの産業を振興させる

●取り組み方針の位置づけ

交通の体系化、回遊を主とした観光政策、荒川ブランドを組み合わせることで、まちの活性化が期待できる。各取り組みを実施していく中で、相乗効果が期待できる。



●対策案 (◎：最優先、○：優先) ※実施の条件と実施時期は例示程度である。

取り組み方針	対策案	実施の条件	実施時期
荒川ブランドの確立	◎ブランド戦略機関の発足 行政と民間とが一体となってブランド戦略を練る専門機関を設置	行政、商工会議所、民間企業などが連携	短期
	ニポカジの見直し 既にあるブランドの見直しの一環		短期
	○PR戦略の徹底 区外へPR力を高めるため、専門家を活用し戦略を練った上で徹底して行なう		短期～中期
回遊できるまちづくり	○現有施設の有効活用(あらかわ遊園など) 既存施設の洗い出し、活用方策の検討と実施方法の検討	行政コーディネートによる調査、提言	短期
	◎区外から人を呼び込むための仕掛けづくり	行政と民間との検討機関を設置し、調査・検討	短期
	◎区外からの人を回遊させるための仕掛けづくり 観光スポット等のネットワーク化など	実施計画を踏まえ実施主体が推進	短期
	川や川辺を活用した回遊のあり方の検討	他区との連携	短期～中期
交通体系の整備	◎回遊を想定した交通網の再構築・体系化 観光の視点から交通体系を再構築	専門家チームによる体系化の検討 路線、本数、サービス等の整備・実施	短期～長期
	近隣区との連携		短期～中期
産業の振興	○強みを活かした地場産業づくり	行政による当面の支援、誘導方策 民間企業の資源・ネットワークの活用	中期
	先端産業の誘致		短期～長期
	◎産業のネットワーク化 行政・商工会等がコーディネート、同業種・異業種間、研究機関などが連携		短期～中期

3. 高齢者が元気になるまちづくりのために（対応すべき課題2）

●基本的な問題認識

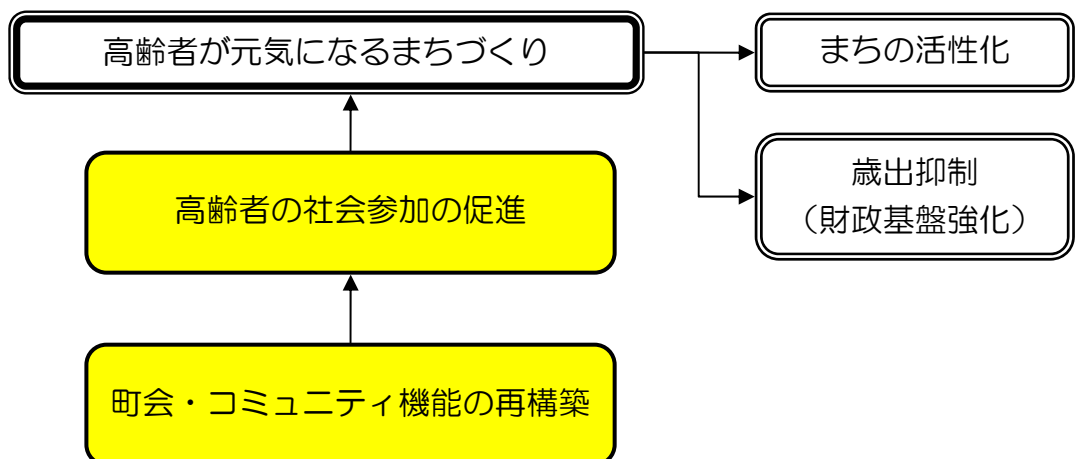
- ✓ 「働く元気なお年寄りがたくさんいて活気のあるまち」を目指すべきではないか。お年寄りに活気があるとまちに活気がでてくる上、民生・福祉費の抑制にもつながる。
- ✓ 高齢者の社会参加を実現していくためには、参加するための場づくりと参加できるような環境の整備が欠かせない。
- ✓ 高齢者には、前期高齢者の方と後期高齢者の方がいる。前期高齢者の方は、まだまだ元気なので、積極的に社会参加してもらうような環境づくりを進める。一方、後期高齢者の方にとっては元気で健やかに暮らせるような環境づくりを進める。

●取り組み方針

- 高齢者が積極的に社会参加できるようにする（社会参加の促進）
- （高齢者の社会参加等に伴い）町会・コミュニティ機能を再構築する

●取り組み方針の位置づけ

町会やコミュニティ機能を再構築・高度化することで、高齢者が社会参加しやすい環境が確保され、元気な高齢者を増やすことにつながる。また、高齢者が元気になることで、まちの活性化につながる上、歳出抑制にも貢献することが期待できる。



●対策案 (◎：最優先、○：優先) ※実施の条件と実施時期は例示程度である。

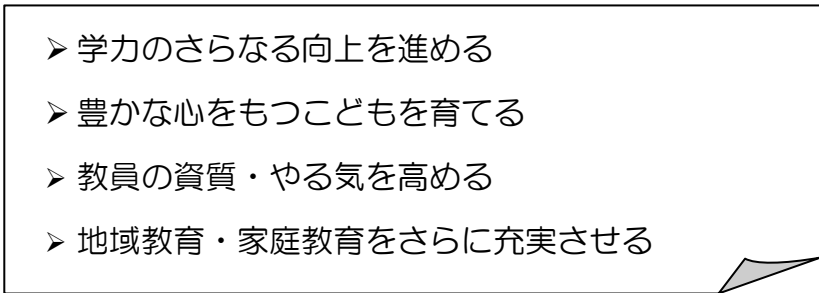
取り組み方針	対策案	実施の条件	実施時期
高齢者の社会参加の促進	○高齢者が参加できるボランティア、NPO 組織の充実	行政による支援 市民活動の活発化	短期～中期
	○高齢者雇用促進に向けた諸制度や基盤の充実 高齢者雇用による優遇措置制度、高齢者就労バンクの設立等	行政による支援 民間活力の活用	短期
	高齢者の社会参加ビジネスの推進 地元に密着したコミュニティビジネスのようなビジネス展開の可能性を検討	民間活力の活用	中期～長期
町会・コミュニティ機能の再構築	◎町会を活用した行政業務のアウトソーシングの推進 町会を地区運営機関として位置づけ、地元密着の行政業務を町会にまかせた上で高齢者が中心となって担う	行政と区民とによる協議機関の設置 民間活力の活用	短期
	○防災・福祉等横断的に対応できる町会機能の確立 高齢者が幅広く活躍できる場の確保（及び区民が安心できる環境づくり）に向けて、行政による縦割りではなく町会地区住民の視点による横断的な機能・体制の検討を行なう		短期

4. 教育環境の充実のために（対応すべき課題3）

●基本的な問題認識

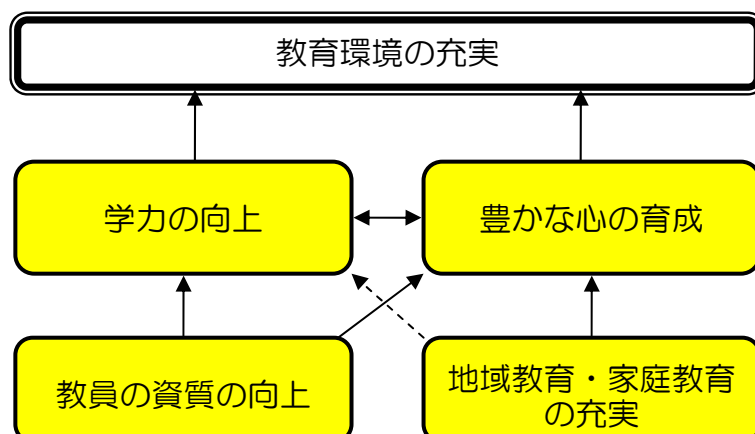
- ✓ 学校教育分野は、制度的には都と区とで権限関係が入り組んでおり、制度的にも見直しの余地があるのではないか。
- ✓ 学力の低下は喫緊の問題である。しかし、学力向上だけでなく、人間性を育てる教育も重要であり、道徳や倫理観についてももっと教育すべきではないか。
- ✓ 自治体間の競争が激しくなり、学校選択制の導入も進んでいる。このような中で、荒川区独自の、魅力ある教育政策、特色ある学校づくりが必要となっているのではないか。
- ✓ 教育を受ける側だけでなく、教育する大人側もしっかりとした意識が必要である。また、教員のレベルアップ、教員採用・評価の仕組みの検討も必要。
- ✓ さらに、学校教育以上に家庭教育も子どもの発達に大きな影響を与える。地域ぐるみの教育体制が必要である。

●取り組み方針

- 
- 学力のさらなる向上を進める
 - 豊かな心をもつ子どもを育てる
 - 教員の資質・やる気を高める
 - 地域教育・家庭教育をさらに充実させる

●取り組み方針の位置づけ

学力の向上とともに豊かな心の育成が重要であり、その実現に向け、教員資質の向上や地域教育・家庭教育の充実が求められる。



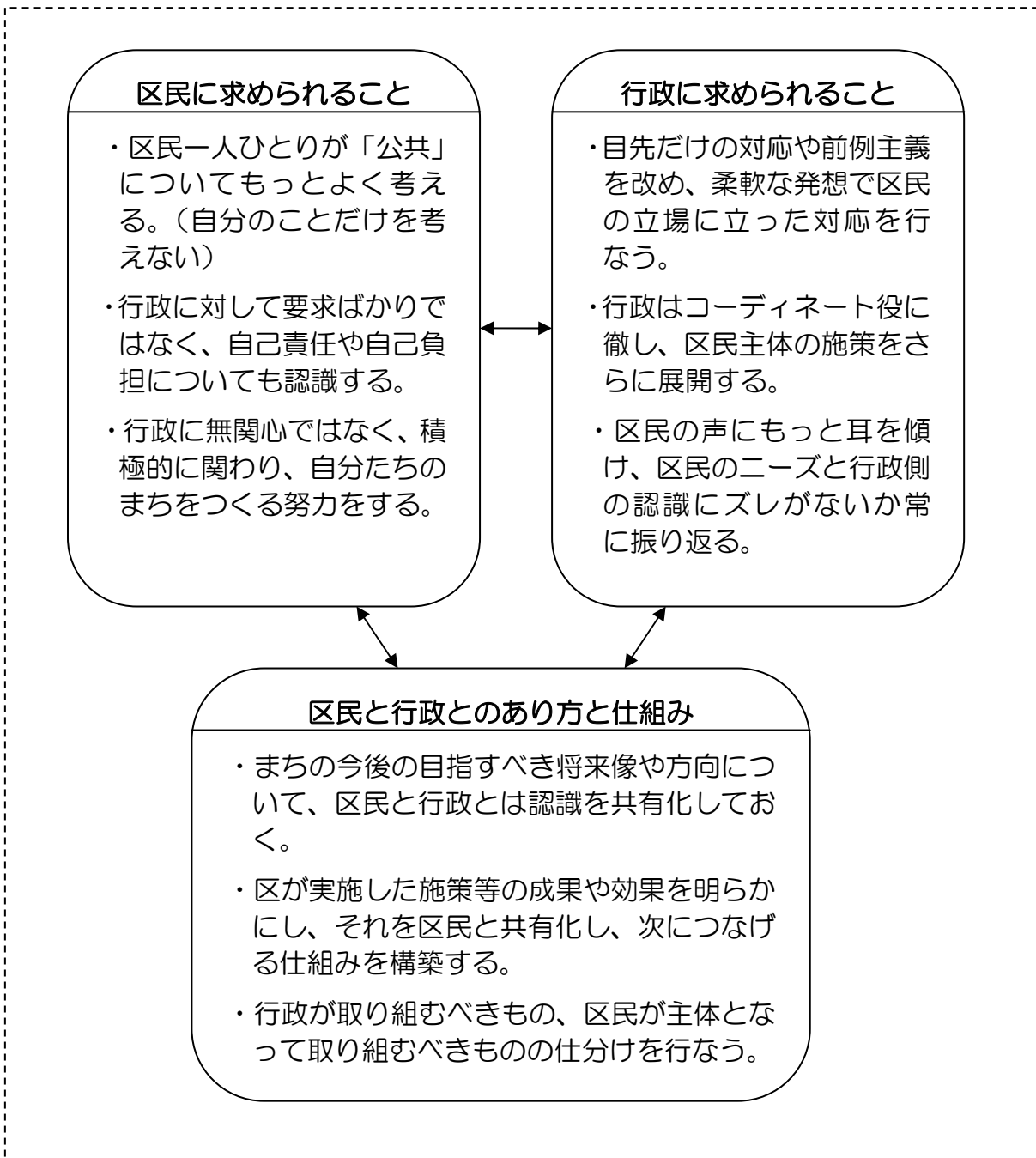
●対策案 (◎：最優先、○：優先) ※実施の条件と実施時期は例示程度である。

取り組み方針	対策案	実施の条件	実施時期
学力の向上 豊かな心の育成	◎特徴のある学校づくり 区外の生徒でも通いたくなるような特徴のある学校づくり（小中一貫校、英語に特化した学校等） パイロット事業として位置づけてもよい	行政による政策決定 区民の活動	短期
	○学校（校長）への経営的視点の導入 例えば、民間からの採用、業績評価の導入など		短期～中期
教員の資質の向上	◎教員評価システムの導入	行政による政策決定 都との調整	短期～中期
	○教員採用基準・方法の見直し		
地域教育・家庭教育の充実	◎地域と一体となった教育システムの導入 地域の職人や社会人等を教師とした制度など	行政の支援 地域活動	短期～中期
	家庭教育の見直しのための地域連携の推進、保護者への教育支援		中期～長期

5. 対策を実効的にするために

紫苑グループは半年以上の討議を経て、以上のような対策案をとりまとめたが、これらの案が、単なる提案で終わるのではなく、今後さらなる検討を経て、具体的な施策等に結びついていくことが重要であると我々は考えている。

そのためには、以下のような行政と区民の今後のあり方、意識改革などが重要であると考える。





荒川区区政改革懇談会
茜グループ 提言書

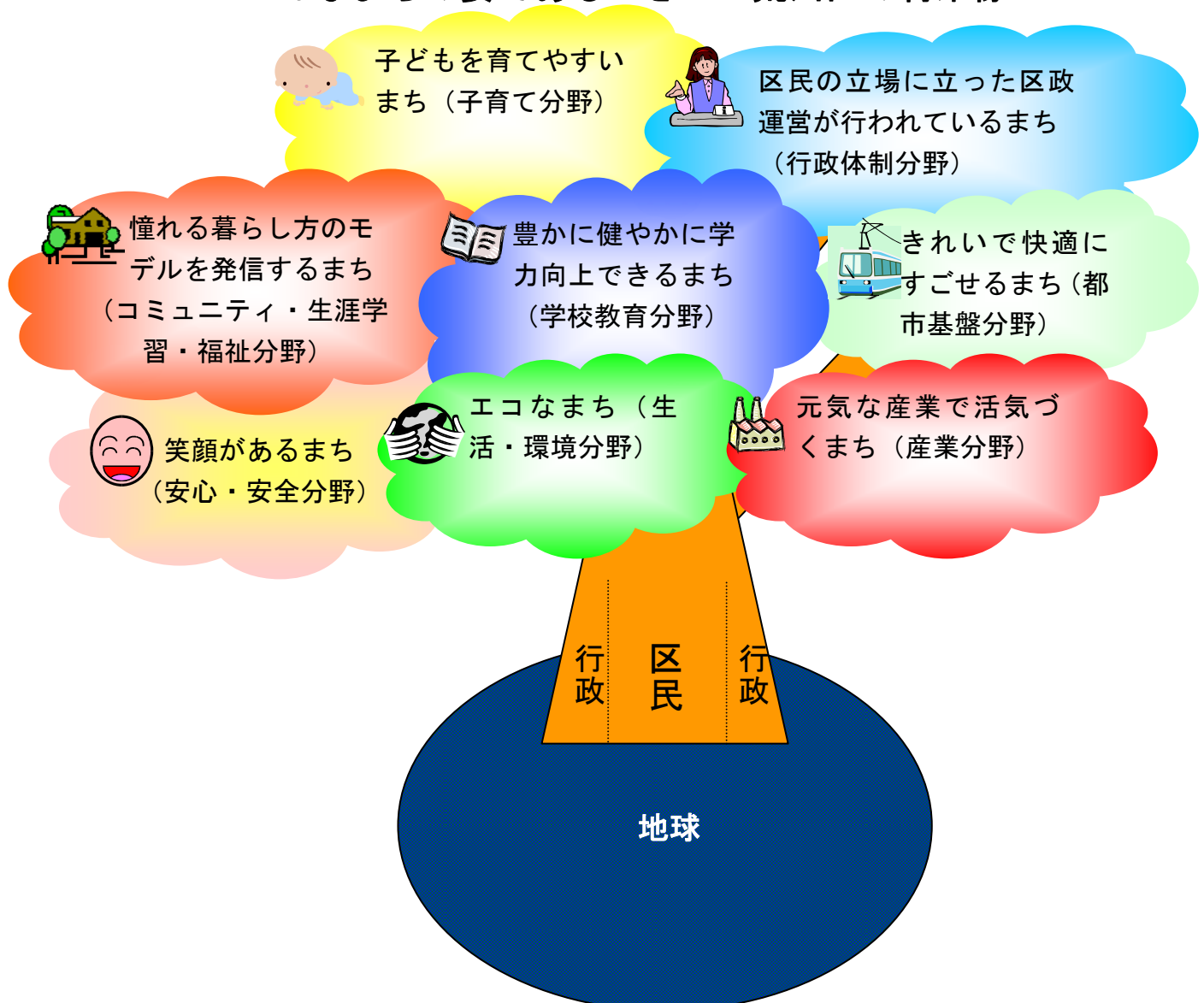
はじめに

茜グループは過去・現在に区内で子育てをしている（していた）人が中心のグループである。討議では、メンバーの特性を活かし、子育てや教育など区内で普段生活している視点から活発な議論を行った。

1. 目指すべき将来像の考え方

茜グループの荒川区の将来像は区を一本の木にたとえて考えた。その木は、中央に主役であるべき「区民」が、両端を、さまざまな場面で生活を支える「行政」で示し、区民と行政とが一心同体となり、荒川区をつくりあげていることをたとえて示している。そしてその荒川区の木が地球に根を下ろし、地球と共生しながら、様々な分野で「花」を咲かせていけたら良い（あるべきまちの姿を実現させていけたら良い）というものである。

こんなまちの姿であるべき！！荒川区の将来像



2. 咲かせていくべき花 [分野別のあるべき像 (将来像)]

(1) 現状認識では、茜グループのメンバーの間で認識を共有した荒川区内の現状を示した。(2) どんな状態になっていれば将来像を実現できているかではより具体的にどういったところが、どんな姿であっていけば良いか、ということを示している。これらの姿が一つ一つ実現することが一つ一つの花 (「荒川区の分野別のあるべき姿 (将来像)」) を咲かせていくことになる。



子育て分野



子どもを育てやすいまち

(1)現状認識

- 少子化対策が大きな課題となっている。
- ひろば館などたくさんあって利用しやすい。
- 大きな公園があって利用しやすい。
- 「しつけ」の責任を転嫁してしまう社会構造がある。
- 多胎児 (双子、三つ子など2人以上の多胎の子) を持つ親へのケアが少ない。
- 子どもの救急医療の体制はある程度整っている。
- 区立と私立の幼稚園でグラウンドなどの区立施設の費用負担や利用手続きに違いがある。
- 父子家庭の支援が少ないのではないかという印象がある。

(2)どんな状態になっていれば将来像が実現できているか



社会全体で子どもを教育するという意識がある

- 地域に住む大人が凜とした厳しさをもち、他人の子どもでも「社会の宝」と考え、毎日挨拶などをかわしあいながら、悪さをした時は叱ったりできるような雰囲気になっている。
- 子どもとお年寄りなどが世代を越えて触れ合う機会が多く、一緒に地域社会を構成しているという雰囲気になっている。
- 子育てをしている家庭の近所の人がお互いに気軽に子どもを見てあげたりするなど子育てを手伝える雰囲気づくりを行なっている。



子どもを安心して預けられる体制がある

- これから働きに出ようとしている主婦や通常の昼間勤務の体制ではない保護者など、それぞれのライフスタイルに応じて選ぶことができる預かり体制がある。
- 幼稚園と保育園の一元化を視野に入れた協力体制が構築される。

-
- 最も若い世代に関わる保育士・幼稚園教諭が社会的に重要な仕事だと認識・評価されて、質の高い養育環境が整っている。
 - 区立でも私立でも区内の幼稚園・保育園に通園している子どもであることには変わりはないので、「子どもを社会みんなで育てていく」という基本に立ち返り、私立でも区立でも同じように公の施設の利用できるようになっている。
 - 子ども同士や子どもを持つ保護者同士が安全で安心して出会い・集う場がたくさんある。



育てへの経済的な支援がある

- 双子や子どもの数など、保護者の状況に応じて適切な支援がなされている。
- 子どもの医療費への補助など、バックアップ体制がとられている。
- 母子家庭だけでなく、父子家庭にも適切な支援がなされている。



育ての情報が得やすく、「親になる」ための教育体制が整っている

- 子育て教室など、「親」になるための教育が機会の面（すべての親となる人がうけられる）と質の面（叱り方ロールプレイングが行われるなど）の双方で充実し、荒川区内で子育てをする保護者は親としての確固とした自覚を持っている。
- 子どもを預けるところに、子どもだけでなく、親を諭し、教育できる人材がたくさんいる。
- 地域の中で自発的に行われているものを含め、子育ての相談体制などの支援が充実し、困った時の助け合いが自然に行われている。



子どもの医療の体制が整っている

- 特に子どもの緊急時の医療について、なるべく近くの病院で診てもらえる体制が整っている。



教育分野



豊かに健やかに学力向上できるまち

(1)現状認識

- 先生の資質の問題を耳にすることがある。
- 区内の保護者の教育に対する意識が強い人とあまり無い人との二極化しつつあるのではないかといった様子が見られる。
- 荒川区の学校は以前に比べてオープンになり、閉鎖性は改善されつつある。
- 学校単位で特色を出してきているのがわかり、保護者の教育方針に沿った学校選びができるようになってきている。

-
-
- 小学校により設備に違いがありすぎると思われるところがある。
 - 小学校がたくさんあり、通学しやすい。

(2) どんな状態になっていけば将来像が実現できているか

人間としての基本的なことが学べる教育環境が整っている

- 様々な人と触れ合うことで、自分と他人との距離感や、立場の違う人に対してどのようにコミュニケーションをとれば良いのかなどが学べるようになっている。
- 先生が、状況に応じて適切な判断をして、確固とした態度で叱ることができている。
- 高齢者福祉施設での体験学習や、自分のキャリア形成を考える学習が行われることにより、将来を見据えた人間としての基礎が築ける教育がなされている。

公立校の教育力が高く、越境するなら「荒川区の学校へ」と思われるようになっている

- 英語だけというように特化するのではなく、国語や算数などを含め、全体的に基礎教育が充実している。
- 効率的で効果的な授業や学級運営が行われるために、例えば民間出身の教育者が公立校で教べんをとっていたり、学級運営担当教員と教科指導担当教員を分業するなど、積極的な取り組みがおこなわれている。
- 近隣の大学生が小中学校の授業のサポートを行うなどで、子どもの学力向上が図られている。
- 地域との連携により、小中一貫や、中高一貫校による教育が行われている。
- 教師が生徒・児童の個性をしっかりと把握できる程度の人数の学級（20人）での教育が実現され、一人ひとりにきめ細かい対応ができるようになっている。

学校（行政）と地域・保護者との間で常にコミュニケーションがとられている

- 地域の人や保護者が学校運営に参画するなど、地域が一体となって学校づくりを行っている。
- 保護者が学校でどんな授業が行われているかのモニタリングができるようになっている。
- 学校が様々な角度から評価され、そしてその評価情報が公表され、地域・保護者でしっかりチェックされる体制になっている。
- 子どもだけでなく、親も子どもが大きくなっていくにつれて、直面するであろう課題に対応できるような教育を受ける機会があり、適切な指導者によって確固とした親になっている。

学びやすい施設環境が整っている

- どの公立校でも児童・生徒が学びやすい教育設備が整っている。



憧れる暮らし方のモデルを発信するまち

(1)現状認識

- 下町気質・人情味・近所づきあいなどが残っている。
- 高齢者が多く、今後も高齢者の割合は増え続ける。
- 人と繋がりを持てる場が少ない。
- 子どもの遊びがTVゲームだけになりつつある。
- 新しく引越してくる人にはとって少し閉鎖的なきらいがある。
- 人と人との関係が薄くなりつつある。

(2)どんな状態になっていけば将来像が実現できているか



気軽に近所付き合いができたり、世代間の出会いがある場がある

- 商店街の中の空きスペースや高齢者の住む住宅などを使い、様々な世代が集い、交流できる場があり、子どもや高齢者がいつでもたまることができたり、緊急の時には駆け込めることができるようになっている。
- 新しく区内にやってきた方でも、町会・自治会などに気軽に参加し、お互いの顔の見える暮らしができるようになっている。また、それらを通じて地域の中でのコミュニケーションのきっかけができ、人づきあいの大切さが実感できるようになっている。
- 区内に在住する外国人との間で盛んな交流が行われ、相互の生活・文化を理解し合っている。
- 小中学校がコミュニティの拠点として様々な世代が集う場となっている。



趣味と地域活動をつなげるしくみがある

- それぞれの持つ趣味や興味・問題意識などから地域貢献活動につながるしくみがある。
- 囲碁など、世代を越えて楽しめるゲームやイベントを通して、地域の中でのコミュニケーションを生みだし、まちの顔としてそれを活用しながら新たな魅力がつけられている。



区民の中でボランティア意識が根付いている

- 新しく荒川区にやってきた人がボランティア活動に興味を持つことができたり、気軽に参加することができるしくみがある。
- 強制的なものではなく、空いている時間をボランティアなどの社会貢献活動に活用できるようなコーディネートを行うしくみがあり、たくさんの区民がそれを通じてボランティア活動を行なっている。



子どもがのびのびと遊ぶことができる

- 時間を合わせなくても自然と人が集まり、遊ぶことのできる場がある。
- プレイパークなどの創作的な遊びが区内の公園などで行われている。
- 路地裏で子どもたちが地域の人と関わりあいながらのびのびと遊んでいる。
- 校庭が芝生化され、放課後の学校開放で子どもたちが芝生の上で元気に走り回っている。



高齢者が生き生きと外に出て活動している

- コミュニケーションの場として銭湯がまちの中のいたるところに残っている。
- 区内の各所にたまり場となれる場があり、一人暮らしの高齢者も毎日外に出てきている。
- 高齢者が働ける機会・場があり、これまでの経験を活かしつつ、仕事に対する誇りを持ちながら働いている。
- 区内の施設を有効に使って、高齢者が健康づくり活動に積極的に取り組んでいる。



・環境分野



エコなまち

(1)現状認識

- 区内の道路を見回してもあまりきれいと言える状態ではない。
- 大人のモラルが低下し、美化に対する意識が強くないのではないかと思う。
- これからの時代は地球環境問題への対策が必須となる。
- 区内にゴミのポイ捨てなどでひどく汚く見えるところがある。

(2)どんな状態になっていけば将来像が実現できているか



きれいなまちになっている

- タバコのポイ捨てやルールを破ったゴミの捨て方に対して罰則を設けられ、区内が清潔できれいな街並みになっている。代わりに、街の中で喫煙者が喫煙できるようなスペースが存在し、喫煙者と非喫煙者の住み分けができています。
- 区内を歩くと視界の中に絶えず緑が入ってくるような風景になっている。
- 地域で一斉にゴミ拾いをしたり、ごみのポイ捨てをされているところを見たら、その人の見えるところでそのゴミを拾うなど、荒川区ではゴミを捨てることできないという雰囲気になっている。



循環型社会への区民の意識が高くなっている

- 区として自然発電の推進や、本格的な省エネ運動など、環境問題対策に本気で取り組み、環境先進区として国内に知れ渡っている。
- 住民の側からもゼロエミッションの取り組みが進んでいる。
- 区民がリサイクルしやすいようなしくみがある。
- スーパーでの過剰包装が少なくなるなど、出すごみを減らしていこうという意識が様々な面で高まっている。
- 環境教育が子どもたちだけでなく、家族も交え、一体的に行われている。



安心・安全分野



笑顔のあるまち

(1)現状認識

- 道路が狭く、入り組んでいるところが多く、大きな地震が起きると考えると不安になる。
- 車・バイク・自転車などから子どもたちを守る必要がある。
- 路地が入り組んでいるところにある公園では人目に付きにくく、子どもを遊ばせにくい。
- 高齢者の多い住宅密集地があり、地震の際に不安である。
- 防災無線やヘリコプターのスピーカーで近所の犯罪情報が提供されているが聞き取りづらい。

(2)どんな状態になっていれば将来像が実現できているか



地域コミュニティを生かした防災・防犯体制がある

- 昼間外に出て花の水遣りを奨励したり、犬の散歩時に区内をパトロールするなど、まちの中で区民の目がいきわたっている。
- 子どもにとっては親の知らない世界を作って遊ぶということも重要なので、子どもの安全対策として全てを親が責任をもって見守るというのではなく、地域の力で親以外の人も見守るしくみができている。
- 何か事件があったときだけ対策をするというのではなく、不断にみんなの生活を地域のネットワークを活かして守っていく活動が自然と行われている。
- ガーディアンエンジェルスのように、自分のまちの安全は自分たちで守るという気概をもった若者がたくさん居て、まちの安全を守っている。



防災・防犯に関する情報が区と区民との間で共有できている

- メールなど、最新の情報技術を通して区民が身近に不審者情報や犯罪状況を知ることができるようになっている。

-
-
- 学校に行っていない世代（未就学児）の保護者にも、不審者情報などがいきわたるしくみができている。
 - 区が警察・消防と連携をとりつつ、区の安全情報を一極集中させる安全情報センターがあり、区民はそこにアクセスすれば区内の安全に関する情報が全て把握できるようになっている。
 - 防犯などで注意を喚起するだけでなく、その事件の経過や結末についても区民が知ることができるようになっている（不安にさせる情報だけでなく、安心させる情報も流すことができている）。
 - 一方で「情報の安全」を守るための様々な対策がなされ、区民の大切な個人情報保護され、流用されないようになっている。

産業分野

元気ある産業で活気づくまち

(1) 現状認識

- 家内工業（住工混在）のまち。
- 中小零細企業が多く存在する。
- これまで小さな町工場などの中小零細企業によって発展してきた。
- 下町のエジソンとも思える技術・アイデアのある人がたくさんいる。
- 荒川遊園など観光資源がある。

(2) どんな状態になっていれば将来像が実現できているか

「環境」を基点としたモノづくりのまちとして賑わっている

- 環境ビジネスを行う大企業が区内に誘致されている。
- 中小企業や町工場もそれに付随して環境に関する商品を扱うようになり、「環境ビジネス産業の最先端は荒川区にあり」というイメージがつくほど環境を基点に活気づいている。

新しい産業や雇用を生み出す源がある

- 西日暮里スタートアップオフィスなどの類似施設が区内の各地にでき、新しい産業を生み出す活力の源が区内に次々とできている。
- ワークシェアリングのモデルケースとなるようなものが作られ、女性や高齢者が元気に働いている。



人が集まるスポットがある

- 荒川遊園を昭和30年代のレトロな雰囲気を作り出すという路線で売り出す。あわせて、周辺に駄菓子屋などを誘致してその区域が一体となって魅力づくりを行う。これにより、観光の目玉となるとともに、そこで高齢者の雇用も生み出されている。
- 駅前などに区内で一通りのものが揃う大型ショッピングモールがあり、人でにぎわうまちになっている。



区内の伝統工芸が継承・保存されている

- 職人（マイスター）の技術を受け継ぐしくみがあり、技術が保存されている。
- 職人（マイスター）が区内で長屋などに集積し、相互に連携し合い、観光資源にもなっている。



都市基盤分野



きれいで快適に過ごせるまち

(1)現状認識

- 再開発で便利になってきている。
- 交通の便が良い。
- 都心に近くて物価が安い。
- 以前よりは減ったと思うが、駅周辺など放置自転車が多く、歩くのが危険な箇所がある。
- 長い時間をかけて細街路拡幅整備事業などで安全できれいな道路が作られていっているのが実感できる。

(2)どんな状態になっていけば将来像が実現できているか



生活に便利なまちになっている

- 商店街が相互に連携し、多彩なサービスをうみだしていくなど、活気にあふれている。
- 商店街などの空き店舗が有効に活用されて賑わいを生み出す拠点となっている。
- 場所によって可能なところは歩道全体が駐輪場として認められ、買い物等にいきやすくなっている。
- コミュニティバス（さくら）が区内の隅々まで回るようになり、高齢者にとっては外に出るのが面倒にならないように、買い物をする人にとってはより便利に区内で買い物ができるようになっている。



一貫した都市計画がなされている

- 区内の地域ごとに特色のあるイメージがづくりがなされている。
- 区内の才能のある人を発掘し、そのような人のアイデアを活用しながら特色ある都市づくりがなされている。
- 車イスや大型のベビーカーでも安全に通れる道路が整備されて、子育て中の方や高齢者がまちに出ることが苦にならないようになっている。
- ゴミ捨て場にダストボックスがあったり、ゴミ捨て場が人目につかないような建築物の設計が奨励され、きれいな街並みになっている。
- 区内の大きな通りには全て自転車道ができていて、自転車を移動の中心にしたまちづくりで国内のモデルケースになっている。
- 一部の路地裏のアスファルトが剥がされ、土に戻って、子どもたちがそこで走り回ったりできるようになっている。



行政体制分野



区民の立場に立った 区政運営が行われているまち

(1)現状認識

- 区民の区政に対する意識が低い。
- 区報を読むと区は本当に様々なことをやってくれているのがわかるが、区民の側は実感していない人が多い。
- 区役所が区民の直面している問題（特に安全面）に迅速に対応してくれる例もよく見受けられるようになってきている。
- 区報などはアピール力が弱い。
- CATV は区の情報を知るのに便利である。
- 緊急時の対応は以前の荒川区や、他区に比べ、スピーディになっていると思えるところがある。

(2)どんな状態になっていれば将来像が実現できているか



区民との連携が促進されている

- 様々な場面で区とNPOなど民間セクターが連携をしながら地域をつくりあげている。
- 懇談会など、区政のことに気軽に参画できる機会を持つ等、区政への関心をあげていくしくみがある。



行政が区民志向で運営されている

- 区役所の中に「コンシェルジュ」や「コールセンター」のような、簡単に住民の意見・質問に答え、そこで意見をまとめて伝えてくれたり、出された意見がその後どうなったかを示してくれるようなしくみがある。
- 住民が区役所の中で一元的に様々な相談に乗ってくれるところがあり、そこからの取次ぎによって、区民が担当する部署を探して回るのではなく、担当する部署の人がそこにやってきて対応をするということが自然になっている。
- 区の施設の月曜日の開館など、利用者の声を柔軟に反映した施設の運営がなされている。
- 「人」が最も貴重な財産という認識に基づいた施策展開がなされている。
- 区長とのタウンミーティングや区長室開放などで、より身近な区民の声が区政のトップに伝えることができるような区民と区長との間で風通しが良いような体制になっている。
- 荒川区が変われば日本が変わるという姿勢で区長や区職員が仕事に励んでいる。

荒川区区政改革懇談会
萌黄グループ 提言書

はじめに

この提言は、10名で構成する萌黄グループメンバーの、今後の荒川区政改革の方向を提言として取りまとめたものである。

萌黄グループは、子育てを終えた女性だけで編成するメンバーであり、女性あるいは主婦の視点に立って、荒川区を住みやすいまちにしたいという思いからこれまで9回にわたって議論してきた。

この提言は、メンバーの性格上、主に「安全で清潔な住みよいまちづくり」について、区政のあるべき姿やその方向性を取りまとめている。

1. 荒川区の現状

(1) 荒川区のイメージ

【良い点】

- ・都心に隣接し、利用できる交通機関が多く、利便性が高い。
- ・日暮里駅周辺や南千住駅周辺、汐入地区の再開発が進められている。

【悪い点】

- ・都立や国立の施設や百貨店がないなど他区に比べて劣っている。

【提 案】

- ・区のPRを強化する。
- ・外国人が訪れるまちづくりを推進する。
- ・都電荒川線を観光に結びつけ、区のイメージアップを図る。
- ・日暮里繊維街のイメージアップを図る。

(2) 近所づきあい

【良い点】

- ・困ったときに、相談したり、頼りにできる。
- ・気取らずに暮らせる。
- ・人情味がある。
- ・下町らしい近所づきあいがある。
- ・近隣との交流がきめ細かい。
- ・年代層が混ざって住んでいる。
- ・町会を通して助け合いがある。

【悪い点】

- ・他区からの移住者、年代によって「親切」と受け止められないときもある。

【提 案】

- ・隣近所とのつきあいを深め、困ったときに助け合える社会づくりを推進する。

(3) 災害対策

【良い点】

- ・ 町会によってはレスキュー隊が組織されている。
- ・ 毎年、町会や区内全域（連合）で防災訓練が行われている。

【悪い点】

- ・ 町会の役員が高齢化しており、災害のときに対応できるのか心配。
- ・ 避難訓練があってもいざというときに役立つのか疑問。
- ・ 消防車や救急車が通れない狭隘な道路が多い。
- ・ 町会の防災対策が弱い。
- ・ 避難場所が少ない。
- ・ 避難場所の周知徹底が必要。
- ・ 広い公園を有効活用する必要がある。
- ・ 災害のとき、道路に電柱があると危険。

【提 案】

- ・ 災害対策の観点からも、電柱の地中化を推進する。
- ・ 区民が主体となって防災マップを作成し、避難場所の周知徹底を図る。

(4) (放置) 自転車対策

【良い点】

- ・ シルバー人材センターの高齢者が自転車の管理・指導を行っている。
- ・ 区が自転車免許証を発行している。

【悪い点】

- ・ 放置自転車が多い。
- ・ 駐輪禁止区域が多い。
- ・ 駅周辺の自転車対策が必要。
- ・ シルバー人材センターの高齢者にマナーの悪い人を指導する権限が与えられていない。
- ・ 子育て中の母親の自転車の乗り方が危険。

【提 案】

- ・ 駐輪場の整備。
- ・ 区の職員が地域を巡回し、実態を認識する。
- ・ シルバー人材センターの高齢者に指導の権限を与える。
- ・ 自転車の乗り方等マナーを高める教室をPRする。

(5) 公園・緑化

【良い点】

- ・ 荒川自然公園や荒川遊園がある。
- ・ 花ちゃんネットワークがある。

【悪い点】

- ・公園にゴミ箱がないのでゴミが散らかっている。

【提 案】

- ・屋上の緑化対策を推進する。

(6) 教 育

【良い点】

- ・習熟度別学習はよい。

【悪い点】

- ・越境入学が多い。
- ・教員の質が低下している。
- ・子どもたちは「ありがとう」が言えない。

【提 案】

- ・区として研修機会の提供や学校と家庭、地域との連携の強化など風通しのいい環境づくりを推進する。

(7) 健康づくり・福祉・子育て

【良い点】

- ・みんなが見てくれるので、子どもを育てるときに安心。
- ・社会福祉協議会で「にこにこサービス」が行われている。

【悪い点】

- ・スポーツ医から運動指導を受けられるようにしてほしい。
- ・子育て中の保護者の意識が低い。
- ・高齢者が多い割に福祉施設が少ない。

【提 案】

- ・少子化対策として、新婚家庭への助成や住宅対策を充実する。
- ・小学校を高齢者福祉施設に転換する。

(8) 生活環境

【良い点】

- ・以前、牛乳パックの回収を行っていた。
- ・各町会で資源回収が活発に行われている。

【悪い点】

- ・道路が暗い（街灯は区と町会で管理しているが、地域によって町会の取り組みが弱い）。
- ・住居表示が少ない。
- ・ゴミを前日に出す人がおり、ノラ猫が増えているので地域住民のモラルを高める必要がある。
- ・清潔さという観点からは、満足な域には達していない。

【提 案】

- ・雨水の活用を推進する。
- ・資源の有効活用を図るという観点から、牛乳パックの回収を再開する。

(9) 区政全般

【良い点】

- ・区の時報のときの荒川区のイメージソング（荒川そして未来へ）を流すことはよい。

【悪い点】

- ・広報を読んでいない人が多い。
- ・何事もタテ割になっている。

【提 案】

- ・広報の内容の充実や、配布方法などをもっときめ細かく行う。
- ・区役所は、関連する部門の連携を強化して区政を推進する。

2. 荒川区の目指すべき将来像

○ 安全なまちづくり

- ・ いざというときに地域住民が協力し合う。
- ・ 歩道の拡幅と電柱の地中化。
- ・ 生活道路の整備。

○ 生活環境の整備

- ・ 美しい街並み、緑が多くゴミのないまち。
- ・ 屋上も含む緑化の推進。
- ・ 雨水利用を進める。
- ・ ソフト（マナー）・ハード（駐輪場）の自転車対策。

○ 子どもを育てやすいまちづくり

- ・ 児童手当や医療費助成など経済的支援策の充実。
- ・ 教員の質向上、学校施設の充実など教育環境の整備。
- ・ 保育所や相談機関の充実など働きやすく安心して子育てができる環境づくり。

○ 日本の玄関になる荒川区

- ・ 日暮里駅周辺の再開発事業に観光を取り込む。
- ・ 日暮里駅周辺に外国人向けのホテルを誘致する（谷中のさわの屋のような）。
- ・ 繊維街を活用する（子ども服が安く、遠方からも買いに来る“ニポカジ”）。
- ・ 区内をアート回廊として整備する。
- ・ まちづくりの観点から観光客を受け入れる体制を整備する。
- ・ 南千住のララテラスにコミュニティバスのバス停をつくる。
- ・ 区内を散策できるように、歩道や商店街を総合的に整備する。

3. 安全で清潔な住みよいまちづくり

(1) 安全なまちづくり

(道 路)

【共通認識】

- 先日、ニュースで関西の火事を報じていたが、道路が狭隘なため消防車や救急車が入れなかった。荒川区も道路が狭いので万一の災害のとき心配である。
- 荒川区は路地が多く、道幅が狭い。整備するにも地主の協力が必要という問題がある。

【提 言】

- 道路の拡幅は超長期的な問題としてとらえ、着実に土地区画整理事業などの都市計画を推進するとともに、道路の整備・拡幅にあたっては、地域の開発事業に合わせて実施する。

(防 災)

【共通認識】

- 万一の災害に備え、最低限3日分の食料、飲料水等の備蓄や家具の倒壊に合わないよう家具につかえ棒を設置するなど災害に対する準備を行う。
- 区民が地区の避難場所を把握していない。非難場所を掲示している町会もあるので、すべての町会に普及する必要がある。
- 新聞を購読していない人（区報が届かない）が増えているので、そういう人に対してどうやって情報提供していくのか問題である。
- 万一の災害で住宅が倒壊しないよう、区の耐震診断や補強に対する助成制度の利用を奨励する必要がある。
- 地域差もあるが、荒川区は地質が軟弱であると言われている。居住地区の地質を知っていれば逃げるべきか、留まるべきかの判断ができるので、事前に古地図を参照しておくことも大切である。
- 火災の際に窓から脱出できるようにシーツの結び方や、ヘルメットの裏側にポケットティッシュやタオルを入れておくなど、安全確保のためのちょっとした工夫について学べる機会を確保する必要がある。

【提 言】

- 万一の災害時に区内の正確な情報を入手できるよう、コミュニティFM局の開設や携帯電話を活用した新たなしくみづくりを検討する。
- 防災6か条を作成し普及させる。
 - ・ いざというときの火の始末は大丈夫ですか？

-
-
- ・いざというときの逃げ道の確保は考えていますか？
 - ・非常持ち出し袋を準備していますか？
 - ・家族が離ればなれになったときの話し合いはもうお済ですか？
 - ・一時避難場所と広域避難場所の確認はされていますか？
 - ・住まいの防災総点検はお済ですか？
- 小さいときから防災について学べるよう、区防災センターや東京消防庁都民防災教育センター（本所防災館）を活用したり、実際の災害を想定した避難訓練や防災訓練を実施するなど授業の中で子どもたちの防災意識を高める。
 - 防災6か条を作成し普及させる。
 - 区民、区、消防、警察、町会、学校などで構成する協議会を設置し、万一の災害時にどこで医療（診療科目も含む）が受けられるか、また、乳幼児がいる家庭やひとり暮らし高齢者、障害者など一人で避難することができない人の把握方法などを検討する。そして、その結果を防災マップに掲載し、併せて避難場所の周知徹底を図る。
 - 区は、高層マンション居住者の安全確保など、災害時のマンション対策を検討する
 - 備蓄倉庫の鍵は誰が開けるのか、食料はきちんと行き渡るのかなど区民の立場からするとわからない点多々ある。万一の災害時に万全な対応ができる体制を確立する必要がある。
 - あらゆる機会を通して防災に対する啓蒙活動を強化する必要があるが、その際に、無関心な人に対していかに関心を持ってもらうかということを考えなければならない。
 - 今後の検討課題として、ペット用の避難場所をどうするか検討する必要がある。

（防 犯）

【共通認識】

- 最近空き巣の被害が増加しており、このグループのメンバーにも何人かが空き巣の被害にあっている。
- 防犯用に鍵を取り付けたり、取り替えた場合に、区から助成が受けられるが、最近の空き巣はガラスを割って侵入する犯罪が多発しており、何らかの対応が必要になっている。
- 防犯対策のため、区では防犯パトロールに力を入れている。

【提 言】

- 長期の外出のときには、隣近所に一声かけられるよう、近所とのつきあいを深めておくことが重要である。
 - 自らも電気やラジオをつけたり、交番に連絡するなど、空き巣の被害にあわないよう自助努力に努める。
 - 地域ぐるみで、犯罪の被害を未然に防止する対策を検討する。
-
-

(2) 生活環境の整備

(街路樹)

【共通認識】

- 区の木は桜であるが、桜は虫がつきやすく、手入れも大変である。また、桜の根が水道管やガス管を破ったり、剪定しないでおくと商店の看板や信号機がみえにくくなるなどの問題が発生する。
- まちの景観を考えると、街路樹は大切である。

【提 言】

- 桜だけでなくハナミズキなども植栽し、街路樹を増やし魅力あるみどりの景観を形成する。
- 定期的に剪定することで、運転手からの見通しや安全を確保する。
- 地域のニーズに応じて、街路樹の植栽、プランターの設置を促進し、区民参加による花のあるまちづくりを進める。

(ゴミ対策)

【共通認識】

- 午後の遅い時間までゴミが収集されないと不衛生である。
- ゴミの出し方やゴミの収集を考えることは大切だが、区、区民、事業者が一体となってゴミの減量化、リサイクルを促進する必要もある。

【提 言】

- ゴミの収集は、できるだけ午前中に行う。
- 町会単位でゴミを減量化するとともに、ゴミ箱を設置する。
- 区の助成でコンポストの設置を奨励し、ゴミの減量化と肥料などへの資源化を図る。
- 区民の理解と協力を得ながら、ゴミの分別を更に細分化し、ゴミを減量化する。
- 細かく仕分けする必要がないパッケージの開発や過剰包装の改善などについて、区が事業者に働きかける。
- ゴミを減量化するための工夫や方法を公募するとともに、有効な意見については区がPRし奨励する。
- 資源の有効活用を図るため、ポイント制を導入するなど地域ぐるみで牛乳パックを回収する。

(自転車対策)

【共通認識】

- 町屋駅前の駐輪場が地下にあり、使い勝手が悪いので、駅前は放置自転車で溢れている。
- 三ノ輪駅周辺では、放置自転車がすぐに撤去されるので、自転車を置く人が少なくなった。

【提 言】

- 駅前周辺の放置自転車を解消するため、使い勝手の良い駐輪場（有料も可）を整備する。
- シルバー人材センターの高齢者に放置自転車の取り締まりの権限を与える。
- 自転車利用者や商店街、鉄道事業者などを巻き込んだ協議会を設置し、抜本的な駐輪場整備のあり方を検討する。

荒川区区政改革懇談会
山吹グループ 提言書

はじめに

この提言は、10名で構成された山吹グループメンバーが期待する区政改革の方向を、提言として取りまとめたものである。

グループメンバーは、民間企業や公的機関などで、長い間仕事や活動を通して培ってきた経験や知識を、来るべき新たな時代の区政に少しでも反映し、荒川区をすべての区民にとって住みやすいまちにしたいという熱い思いを持ちながら、議論を重ねてきた。

議論の当初は、「基本構想と区政懇談会の関係」「提言の位置づけ」など、議論の内容や提言に関する基本的な事項の確認に時間を割き、共通の理解をした上で議論を始めた。

この提言は、「産業・経済」「教育・青少年育成」「障がい児・者福祉」「まちづくり」「環境」「コミュニティ」「区政」及び「基本構想実現に向けて」の、区政に関する8分野のあるべき姿や、その実現のための方向性をとりまとめている。

このうち最も重要なことは、「基本構想を実現するための仕組みをつくり、実現に向けた取り組みを行うことである」が、メンバーの一致した共通の認識である。

1. 荒川区の現状

(1) 産業・経済

①ものづくり・製造業

伝統的な工芸技術を持つ職人が多く住む『ものづくりのまち』であるが、その存在は区内外に広く知られておらず、後継者も不足するなど、活力が失われつつある。

【活用すべき点】

- ・製造業は減少しているが、依然として区の中心的な産業である
- ・「匠のこころ」は世界に誇れる区の資源である
- ・伝統的な工芸技術を有する多くの職人さんがいる
- ・「荒川マイスター」の表彰など、技術の伝承のための活動が進められている

【改善すべき点】

- ・荒川区が『ものづくりのまち』であることを区外の人だけでなく、区民も知らない
- ・工芸技術の後継者育成は必要だが、経済面を考えると難しい

②観 光（文化財の保全などの観点も含めて）

現在では観光の目玉はないが、埋もれた資源も含めて名所・旧跡は多く、整備やPRを進めることにより、観光資源となる可能性がある

【活用すべき点】

- ・観光の目玉はないが、名所・旧跡は多く、花の木橋の親柱など埋もれた資源もある
- ・都電、隅田川、尾久の渡し、荒木田原(相撲の土俵土である荒木田土の産地)、南千住の御輿などは、観光資源となる可能性がある

【改善すべき点】

- ・全国を対象とするような有名な名所・旧跡はなく、観光資源として活用するのは難しい
- ・全体的にPRが不足している（南千住の御輿など）

（２）教育・青少年育成

一部児童・生徒により、正常な授業に支障のあるケースが見られるとともに、青少年犯罪の増加・低年齢化・凶悪化の傾向が拡大している。

【活用すべき点】

- ・区は学業・スポーツ振興に熱心に取り組んでいる

【改善すべき点（下記は全国的な動向でもある）】

- ・一部の児童・生徒により正常な授業に支障のあるケースが見られる
- ・一般的に万引きなどの青少年犯罪が増え・低年齢化している。また凶悪化の傾向も見られる
- ・一般的に登校拒否やニートの問題が顕在化している
- ・基本構想に記述されている方針などが現場の教師に伝わっていない
- ・教師の指導力のさらなる強化が必要となっている
- ・教師は指導をしているが、子供の行動に反映されない

（３）障がい児・者福祉

自立したいと考える障がい児・者が増え、小学校で障がいに対する教育が実施されるなど障がい児・者を取り巻く環境は変わりつつあるが、不十分な状態である。

【活用すべき点】

- ・荒川区は起伏がないなど、障がい児・者にとって快適な社会生活が可能である
- ・小学校などで障がいに対する教育が進められ、理解が深まりつつある
- ・自分の能力を発揮できる環境をもとめる障がい児・者が増えている

【改善すべき点】

- ・引きこもっている障がい児・者が見られる
- ・一般区民の障がい児・者に対する偏見が見られる
- ・障がい児・者やその家族が気兼ねしないで生活できる地域づくりが必要である

（４）まちづくり

再開発やマンション建設などにより下町風情が無くなりつつあり、安全に配慮しながら、新たなまちづくりと下町風情が調和した個性あるまちづくりを進める必要がある。

【活用すべき点】

- ・交通と住環境に恵まれており、下町風情が色濃く残っている
- ・日暮里地区、三河島地区の開発が進められている

【改善すべき点】

- ・マンションなどの立地による下町風情がなくなりつつある。また細街路の一方が袋小路になるなど、防災面での不安が起きている
- ・災害時に倒れた電柱が、避難や救助の障害となる可能性がある
- ・荒川区全体としての独自の良い総合的なイメージづくりが必要である
- ・区内の緑が十分でなく、保全・創出が必要である
- ・歩きたばこや吸い殻のポイ捨て、ペットの糞などの始末ができていない

(5) 環 境

排気ガスが原因と考えられる喘息患者が増加しており、またリサイクル運動が徹底していない。

【改善すべき点】

- ・自動車の排気ガスが原因と考えられる喘息患者が年々増加し、特に小学生では全国平均を上回っている
- ・リサイクル運動が徹底していない

(6) コミュニティ

マンションなどの増加により区外からの転入者が増えているが、居住歴の長い区民とのコミュニティが形成できないケースが増えている

【改善すべき点】

- ・町会は世代間、長老と新住民の間などの隔たりなど、住民個々の声を代表しきれない組織となっている
- ・マンションの増加による区外からの転入者が増加し、町会など地域活動に参加しない人が増えている
- ・防災面でコミュニティの必要性が高まっている
- ・外国人の社会的犯罪が増えているが、外国人との相互理解を深めるには時間が必要である
- ・ボランティア活動の場や器具・備品貸し出しなどの柔軟な対応ができていない
- ・高齢者などのボランティア活動への誘導が必要である

(7) 区 政

区民の声を反映する仕組み、十分な情報開示や効率的な行政運営ができていないと思われる点があり、区政改革の明確なイメージが見えない。

【改善すべき点】

- ・区民の声が十分に反映できていなく、区民と区政の間に距離がある
- ・効率的で効果的行政運営ができていない懸念がある
- ・十分な情報開示がなされていない
- ・区政改革の明確なイメージが見えない
- ・区民が条例を知らないし、また条例無視に対する抑止力が不十分である

(8) 基本構想実現に向けて

区民が参加しながら、構想・計画と実行評価を予算と連動して行う仕組みを構築して、基本構想を絵に描いたもちとしない、実現のための仕組みが最も重要である。

【改善すべき点】

- ・ 構想・計画と予算、実行、評価が連動したシステムの構築が必要である
- ・ 構想・計画、実行の評価に際して、区民が参画する仕組みも必要である

2. 荒川区の目指すべき将来像

分野別の将来像を次の通り提言する

荒川区の目指すべき将来像

産
業
経
済

- 匠の心を伝承するものづくりのまち
 - ・ 伝統技術産業を継承し、荒川ブランドとして発信
- 都市型観光産業を育成するまち
 - ・ 都電、隅田川に加え、埋もれている歴史文化資源の発掘・整備を進め、伝統技術産業も活用した都市型観光形成の可能性を検討

教
育
・
青
少
年
の
健
全
育
成

- 魅力的で厳格な学校授業が行われ、健全な青少年が育つまち
 - ・ 家庭教育と学校教育などの連携を図り、社会全体で育成する仕組みづくり
 - ・ 青少年の健全育成のための地域総ぐるみの活動強化

障
が
い
児
・
者
福
祉

- 障がいの有無に関わらず、すべての区民が安心して暮らせるまち
 - ・ 区民にノーマライゼーションの意識が浸透し、障がい児・者の主体的・自立的な生活の実現

ま
ち
づ
く
り

- 新たなまちづくりと江戸の下町風情が調和する、安全・安心で、快適な新しい息吹の感じられる美しいまち
 - ・ 再開発などの活力あるまちと江戸の面影を残す下町との調和
 - ・ 区民がつくる、災害に強く美しいまち

環
境

- 区民総ぐるみで環境先進区としての取り組みが展開されているまち
 - ・ 国や都と連携した脱車社会の取り組みと、リサイクル運動の展開

コ
ミュ
ニ
ティ

- 居住年数や年齢などをこえて多様なコミュニティ活動が展開されているまち
 - ・ 町会活動の活性化とコミュニティ活動に消極的な区民を誘導する新たな活動の展開
 - ・ 居住年数の違いを越えた地域住民の交流活動の推進

区
政

- より区民に開かれた区政が実現しているまち
 - ・ 区政に対する区民の意識改革と区民参画の仕組みづくり
 - ・ 縦割り型組織の改革と効率的な行政運営の推進

基
本
構
想
実
現
に
向
け
て

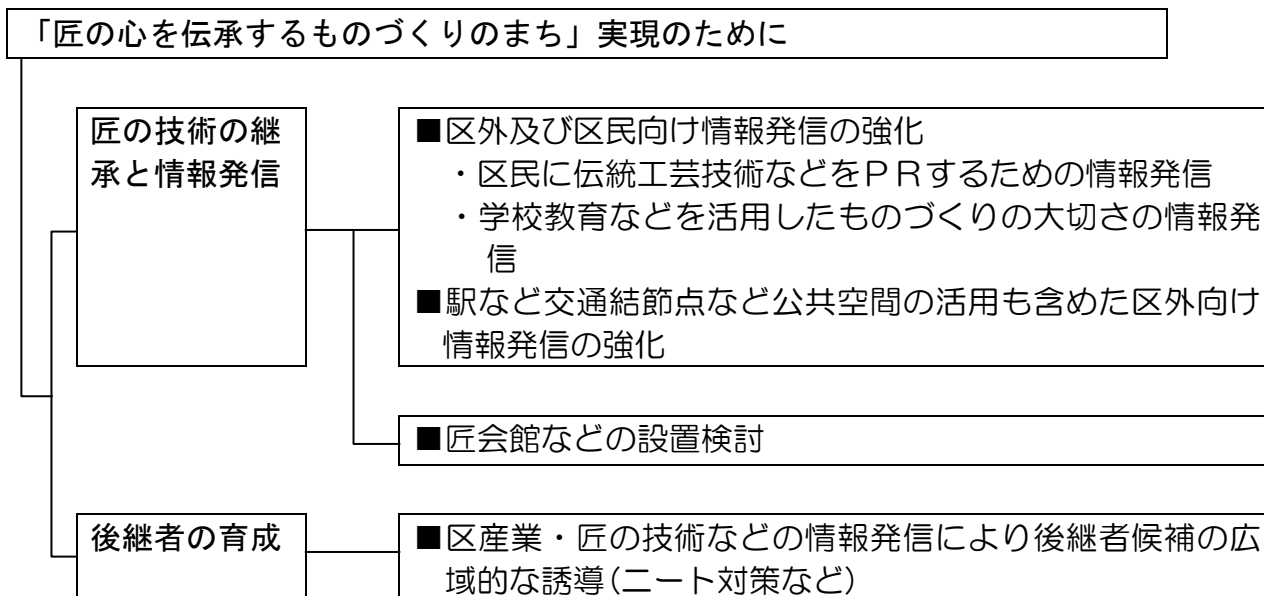
- 行政評価の仕組みが適正運営され、評価を行いながら基本構想の目標達成のための活動が進められているまち
 - ・ 計画・予算・評価などが連動した行政評価の仕組みづくり
 - ・ 区民参加の実行・評価の仕組みづくり

3. 分野別のまちづくりの方向

(1) 産業・経済

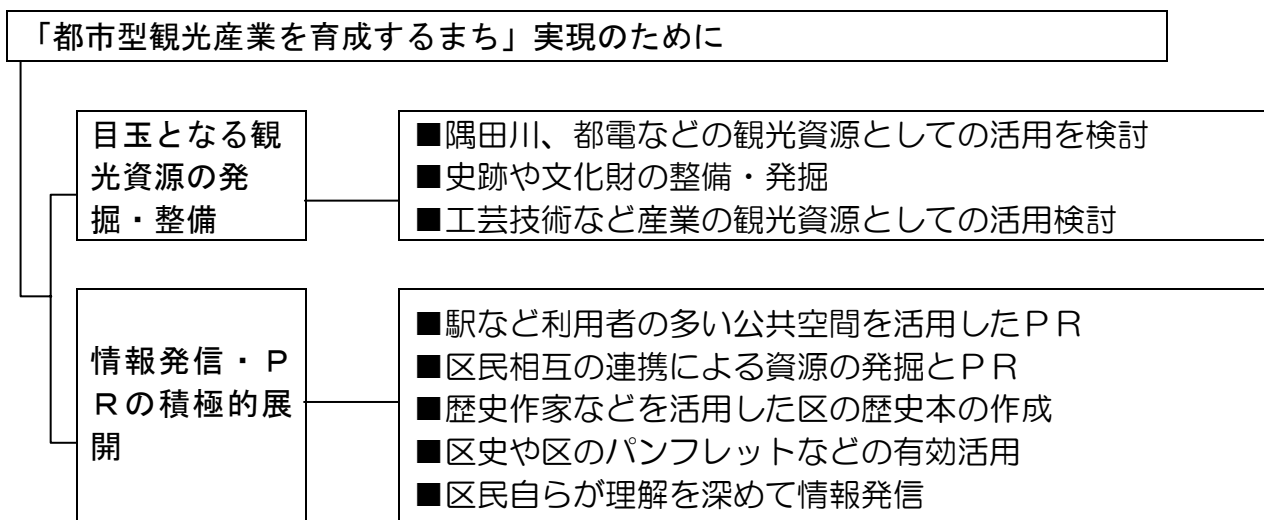
①ものづくり・製造業

伝統的工芸技術は世界に誇れる区の産業資源であり、技術の伝承と産業としての活性化、後継者の育成、零細企業対策が必要である。しかし製品に対する需要は減少しており、産業としての確立維持は困難が予想されることから、区の内外に広く情報発信を行うことにより区のイメージを高め、販路の開拓や後継者の誘導に主眼をおく。



②観 光

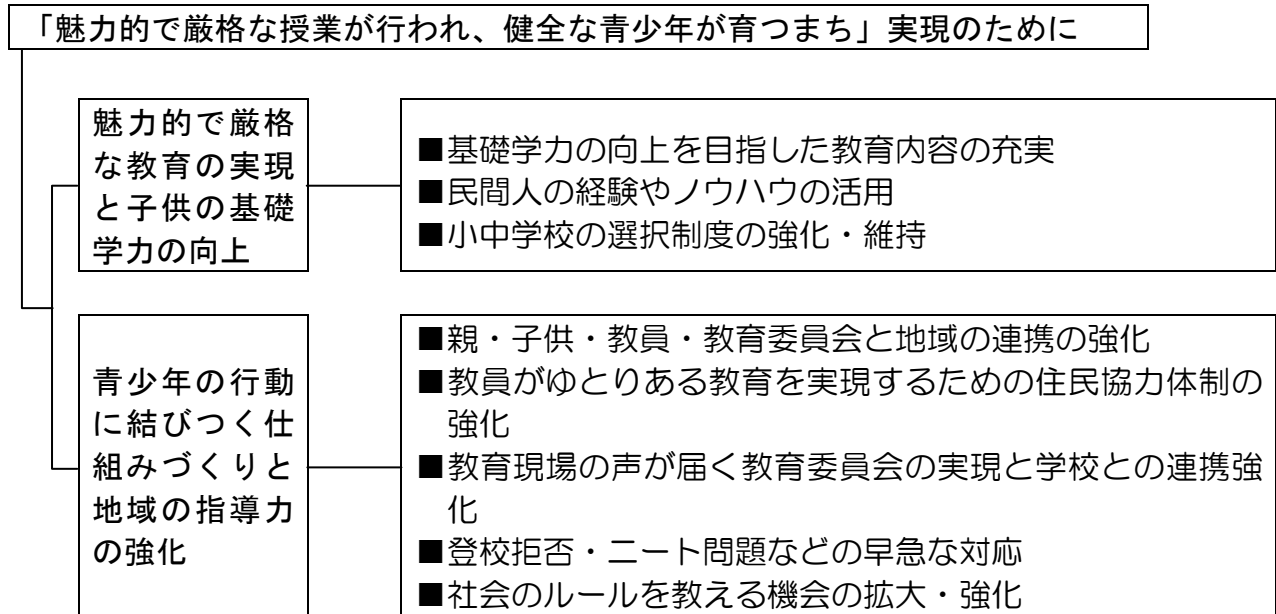
目玉となる観光資源や文化財は存在しないことから、史跡や文化財の発掘・整備を進め都市型観光地形成の可能性を探りつつ、都市型観光産業を育成することが求められる。



(2) 教育・青少年の健全育成

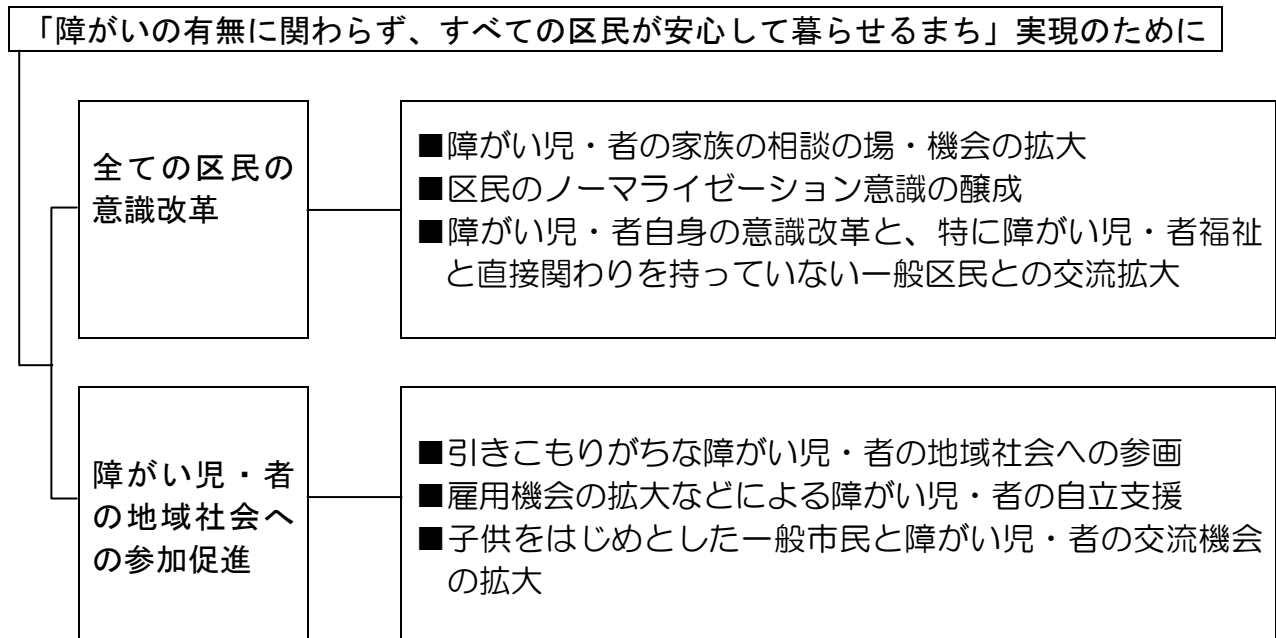
「魅力的で厳格な授業を行い基礎学力を身につけた子供を育てること」「万引きなど青少年の犯罪をなくすこと」が最も重要である。

そのためには、親・子供・教員・教育委員会、地域が連携し、一体となって取り組むなど、社会全体で支える仕組みが必要である。



(3) 障がい児・者福祉

すべての区民が安心して生活できる地域社会の仕組みづくりが必要である。

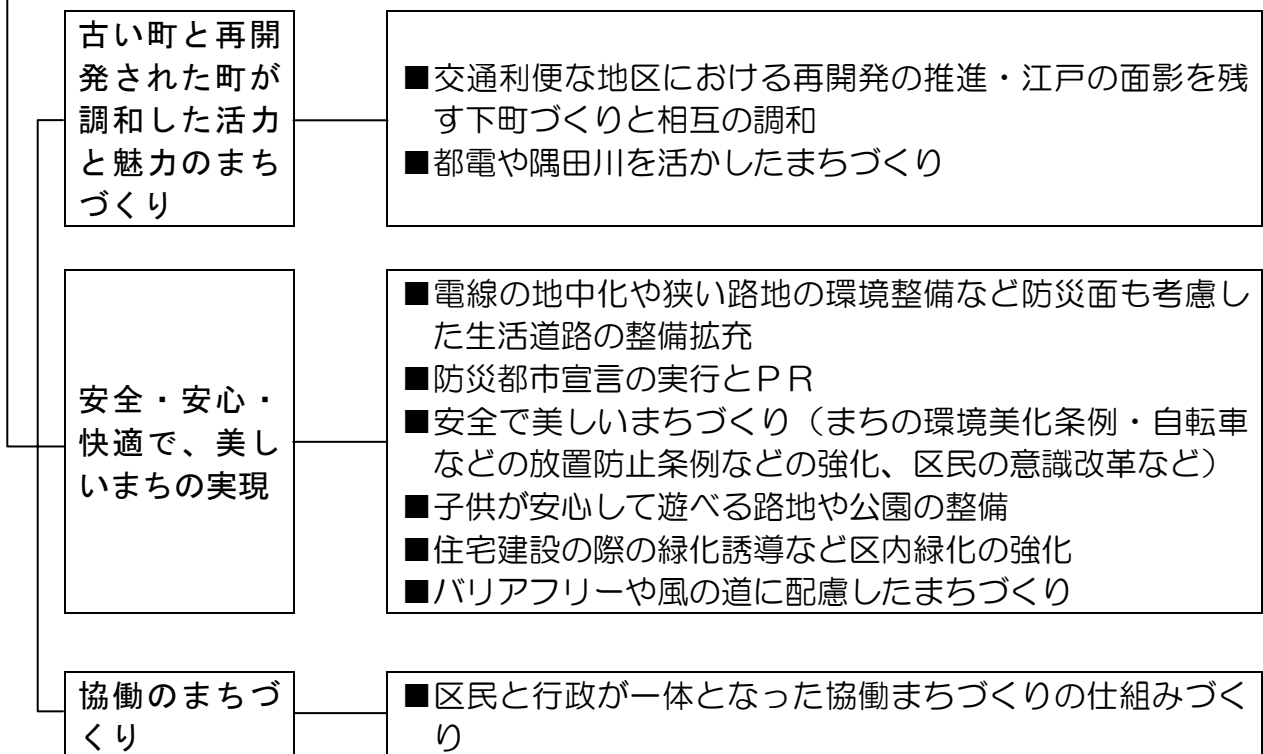


(4) まちづくり

日暮里地区や三河島地区の再開発は区の活力・魅力づくりのために必要である。各所で立地しつつあるマンションは、江戸の面影を残す下町風情との調和や、災害時の安全性の確保、風の道の確保など環境面に配慮した誘導が必要である。

新たなまちづくりと下町風情との調和などに留意した、荒川区全体として個性と魅力ある景観形成を進める必要がある。

「新たなまちづくりと江戸の下町風情が調和する、安全・安心で、快適な新しい息吹の感じられる美しいまち」実現のために



(5) 環境

排気ガス対策とリサイクル運動の推進を、区の環境対策を牽引するプロジェクトとして展開して、環境の先進区としての取り組みを進める必要がある。

「区民総ぐるみで環境先進区としての取り組みが展開されているまち」実現のために

関係機関と連携した、大気汚染対策の強化

- 大気汚染の現状の公表と国や都と連携した対策の強化
- アイドリングストップ運動の推進
- 脱車社会の先進区としての取り組みと情報発信

区民・企業総ぐるみのリサイクル運動の展開

- リサイクル運動の強化推進
- 温暖化やダイオキシン発生原因となるプラスチック類の完全リサイクル化の推進
- 集団回収事業の強化・全世帯化

(6) コミュニティ

地域住民とマンションなどの新しい住民との連携・交流が重要であり、町内会の活性化とともに、コミュニティ活動に消極的な人が参加できる仕組みや体制づくりが必要である。

またボランティア活動が活発化していることを踏まえ、グループの活動を支える場の提供や用具など、区の理解と協力が必要である。

「居住年数や年齢層などをこえた多様なコミュニティ活動が展開されているまち」実現のために

町内会活動を中心とした地域が一体となるための共通理解と協力体制の強化

- 地域住民とマンションなどの新しい住民との交流の仕組みづくり
- コミュニティに消極的な人を誘導する仕組みや活動づくり
- 町内会と管理組合との連携の強化

在住外国人との交流の拡大

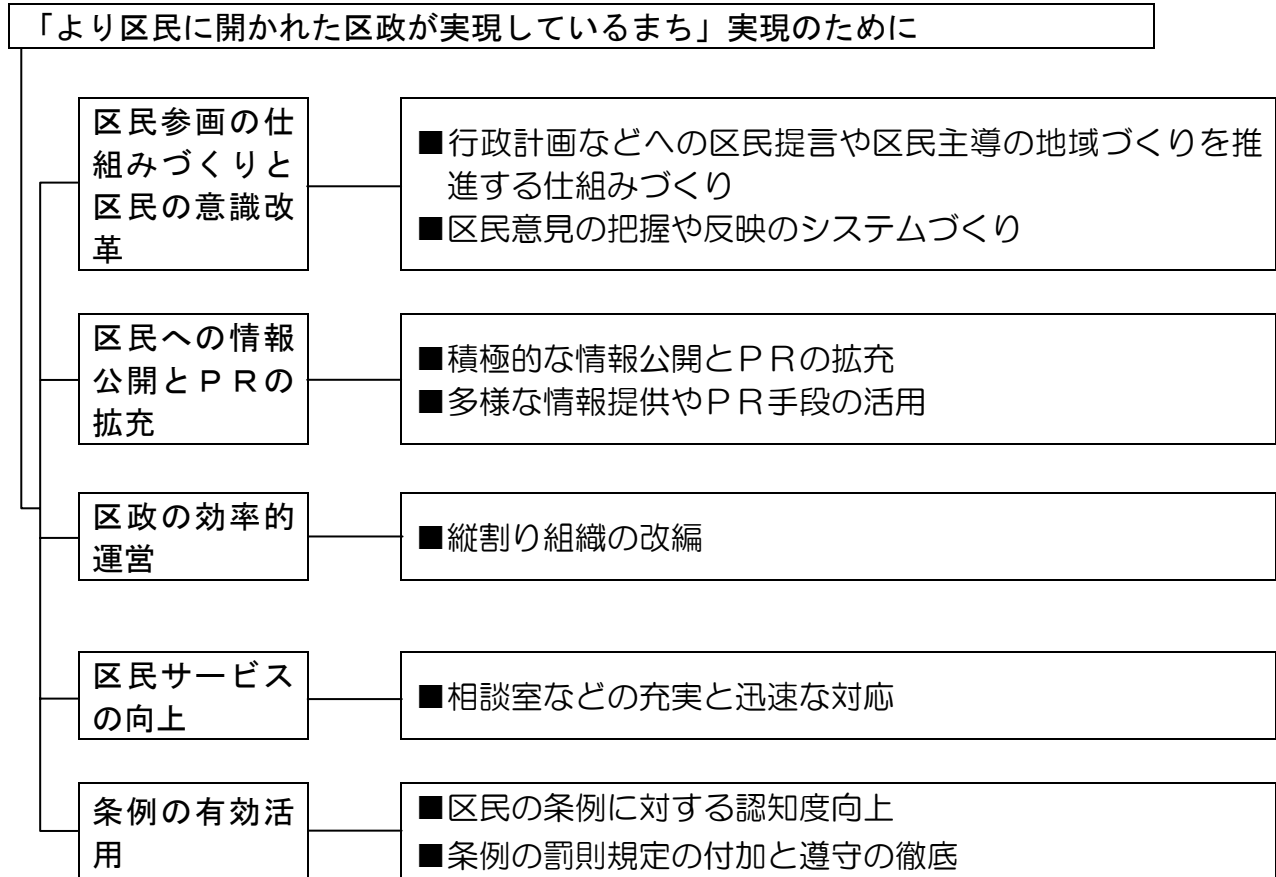
- 在住外国人への長期的にやさしい対応
- 生活情報の提供や日本語教育などの継続的实施

ボランティア活動の支援強化

- ボランティア活動のしやすい環境づくり・拠点づくり
- 住民主体のボランティア活動拡大の盛り上げ
- 遊休施設や器具などのボランティア活動への開放など活動支援

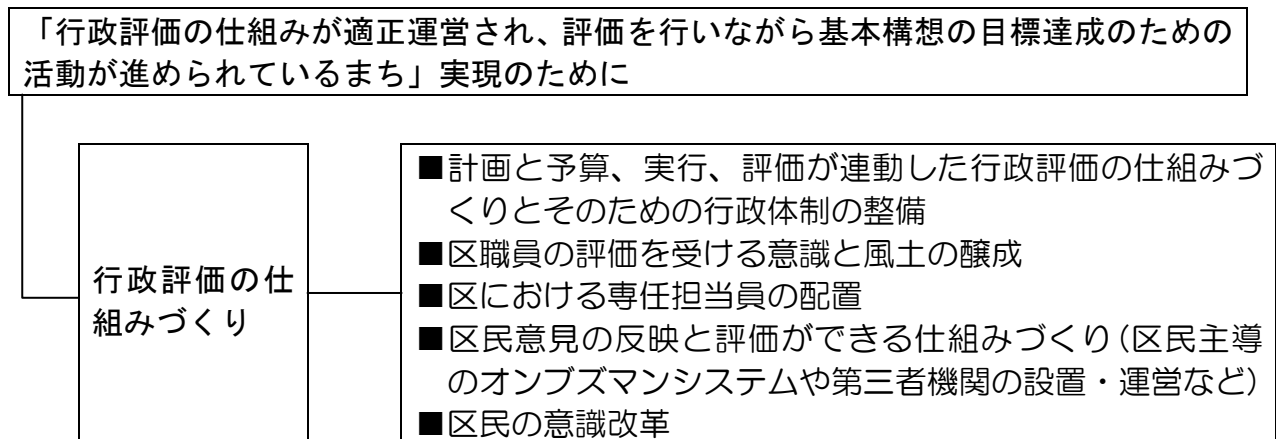
(7) 区 政

区民に必要な情報が提供され、区民の意見や提言を把握・反映する仕組みがあり、区の組織が柔軟で効率的な運営がなされるとともに、区民も意識改革を進め、区政に積極的に参画することが必要である。



(8) 基本構想実現のために

基本構想などに提唱されている内容の実現が最も重要であり、そのためにはマネジメントシステムを通じて実行に移し、計画と予算、実行、評価が一体となり、区民も参画する行政評価の導入が求められる。



区政改革懇談会 グループ討議開催経過

真紅グループ

回	年月日	主な内容	会場
第一回	平成17年 7月16日	・自己紹介 ・日頃区政に対して興味を持っていること、荒川区の現状について	サンパール荒川 末広
第二回	8月23日	・荒川区の現状と課題について	荒川区役所 304会議室
第三回	9月13日	・荒川区の現状と課題について ・分野別のあるべき将来の姿	荒川区役所 305会議室
第四回	10月11日	・荒川区の現状と課題について ・分野別のあるべき将来の姿について	荒川区役所 講談室
第五回	11月1日	・中間発表会の内容について	荒川区役所 議員待遇者室
第六回	11月23日	・中間発表会	サンパール荒川 末広
第七回	12月7日	・分野別のあるべき姿について ・構想の役割や実現に向けた課題	荒川区役所 議員待遇者室
第八回	平成18年 1月19日	・提言書(案)の構成、内容について	荒川区役所 議員待遇者室
第九回	1月26日	・提言書の内容確認	荒川区役所 305会議室
第十回	2月5日	・提言報告会	サンパール荒川 末広

瑠璃グループ

回	年月日	主な内容	会場
第一回	平成17年 7月16日	・自己紹介 ・荒川区の現状について	サンパール荒川 末広
第二回	8月4日	・荒川区の現状と課題について	荒川区役所 庁議室
第三回	9月13日	・荒川区の現状と課題について ・分野別のあるべき将来の姿	荒川区役所 304会議室
第四回	10月12日	・荒川区の現状と課題について ・分野別のあるべき将来の姿について	荒川区役所 議員待遇者室
第五回	11月8日	・中間発表会の内容について	荒川区役所 議員待遇者室
第六回	11月23日	・中間発表会	サンパール荒川 末広
第七回	12月14日	・提言書(案)の構成について	荒川区役所 議員待遇者室
第八回	平成18年 1月12日	・提言書(案)の構成、内容について	荒川区役所 議員待遇者室
第九回	1月23日	・提言書の内容確認	荒川区役所 議員待遇者室
第十回	2月5日	・提言発表会	サンパール荒川 末広

紫苑グループ

回	年月日	主な内容	会場
第一回	平成17年 7月16日	・自己紹介 ・懇談会に参加した動機、興味をもっていること など	サンパール荒川 末広
第二回	8月19日	・こうなって欲しいまちの姿と課題 (産業から生活環境、教育、福祉まで全般的に討議)	荒川区役所 304会議室
第三回	9月20日	・荒川区の具体的な課題等 ・主に観光・産業、都市基盤整備について	荒川区役所 101会議室
第四回	10月13日	・荒川区の具体的な課題等 ・主に教育、高齢者福祉について	荒川区役所 議員待遇者室
第五回	11月10日	・中間発表会の内容について	荒川区役所 議員待遇者室
第六回	11月23日	・中間発表会	サンパール荒川 末広
第七回	12月12日	・提言書(案)の構成、内容について	荒川区役所 議員待遇者室
第八回	平成18年 1月25日	・提言書の内容確認	荒川区役所 議員待遇者室
第九回	2月5日	・提言報告会	サンパール荒川 末広

茜グループ

回	年月日	主な内容	会場
第一回	平成17年 7月16日	・自己紹介 ・日頃区政に対して興味を持っているところについて	サンパール荒川 末広
第二回	8月4日	・課題の抽出	荒川区役所 304会議室
第三回	9月29日	・分野別のこうなって欲しいまちの姿について	荒川区役所 305会議室
第四回	10月14日	・世代別のこうなって欲しいまちの姿について ・世代横断的に進めて行くべき方向性について ・中間発表会の発表内容の骨子づくり	防災センター4階 研修室
第五回	11月7日	・中間発表会の内容について	荒川区役所 305会議室
第六回	11月23日	・中間発表会	サンパール荒川 末広
第七回	12月19日	・提言書(案)の構成について ・提言書(案)の内容の骨子づくり	荒川区役所 305会議室
第八回	平成18年 1月12日	・提言書(案)の内容、構成について	荒川区役所 議員待遇者室
第九回	1月30日	・提言書の内容確認	荒川区役所 305会議室
第十回	2月5日	・提言報告会	サンパール荒川 末広

萌黄グループ

回	年月日	主な内容	会場
第一回	平成17年 7月16日	・自己紹介 ・これからの検討テーマについて	サンパール荒川 末広
第二回	8月10日	・荒川区の良い点・悪い点について	荒川区役所 庁議会議室
第三回	9月17日	・荒川区の良い点・悪い点について ・こうなってほしいまちの姿と課題について	荒川区役所 304会議室
第四回	10月6日	・こうなってほしいの姿と実現するための方策について ・重点問題について	荒川区役所 305会議室
第五回	11月9日	・中間発表会の内容について ・重点問題を解決するための対応策について	荒川区役所 議員待遇者室
第六回	11月23日	・中間発表会	サンパール荒川 末広
第七回	12月23日	・今後の検討テーマの確認 ・生活環境の整備について	荒川区役所 305会議室
第八回	平成18年 1月11日	・安全なまちづくりについて	荒川区役所 304会議室
第九回	1月24日	・提言書の内容の確認	荒川区役所 304会議室
第十回	2月5日	・提言報告会	サンパール荒川 末広

山吹グループ

回	年月日	主な内容	会場
第一回	平成17年 7月16日	・自己紹介 ・日頃区政に対して興味を持っているところについて	サンパール荒川 末広
第二回	8月8日	・基本構想の位置づけや基本構想と提言との関係につ いての議論と確認	荒川区役所 304会議室
第三回	9月7日	・日頃区政に対して興味を持っている分野の問題意識に ついて	荒川区役所 305会議室
第四回	10月5日	・産業・経済、教育、まちづくり、コミュニティ、区政分野及 び基本構想を実現するための方策について	荒川区役所 議員待遇者室
第五回	11月7日	・中間発表会の内容について	荒川区役所 305会議室
第六回	11月23日	・中間発表会	サンパール荒川 末広
第七回	12月14日	・環境及び福祉分野について	荒川区役所 庁議室
第八回	平成18年 1月11日	・提言書(案)の内容について	荒川区役所 特別会議室
第九回	1月24日	・提言書の内容確認	荒川区役所 304会議室
第十回	2月5日	・提言報告会	サンパール荒川 末広

編集発行：荒川区総合企画部総務企画課

登録：(17)0065 号

荒川区区政改革懇談会
提言書
(概要版)

～荒川区の目指すべき将来像について～

平成 18 年 2 月

目次

荒川区区政改革懇談会委員名簿……………1

真紅グループ 提言書(概要版)……………2

瑠璃グループ 提言書(概要版)……………7

紫苑グループ 提言書(概要版)……………12

茜グループ 提言書(概要版)……………16

萌黄グループ 提言書(概要版)……………19

山吹グループ 提言書(概要版)……………22

荒川区区政改革懇談会委員名簿

真紅グループ	瑠璃グループ	紫苑グループ
赤池史有 川口仁志 神保秀久 杉原威史 杉本洋平 田島俊子 田村顕司 田村晴彦 鳥畑拓也 二見亨 高橋優樹 中城正憲	小川順一郎 小倉康彦 梶雅俊 加藤佐一 久保田剛 後藤宏道 澤野修一 島田晴行 長谷川恵子 文村秀哲 三ツ木直樹 吉田忠一	安部義治 五十嵐進 石塚嘉広 伊藤行宏 汲田憲一 桑原勇雄 ◎櫻井善忠 高松俊和 徳本和雄 樋田武 丸島高三 宮島豊 柳原祐之

茜グループ	萌黄グループ	山吹グループ
新井敏夫 秋田恵子 国府田玲子 津村礼子 中村郁子 松岡香子 村上律子 矢嶋薫 柳田記代巳	浅香敏子 石井富江 石黒早苗 牛丸美代子 大貫輝子 車豊子 小林知子 斉藤なみ 佐藤康子 渡辺宏子	飯田正二 市川正夫 岡田正規 尾崎幹男 桜井房一 高見和幸 千葉智祥 津田耕嗣 橋本富夫 前田淳一 吉川赳夫

(◎座長・五十音順・敬称略)

荒川区区政改革懇談会

真紅グループ 提言書（概要版）

はじめに

真紅グループは20歳代から50歳代の勤め人を中心としたグループである。

荒川区生まれの住民として、荒川区で働く勤労者としてなど、それぞれの立場、経験から区に住むこと、働くことの良し悪し、これからの区の望ましい姿とその実現への方向について議論を重ねてきた。

1. 荒川区の目指すべき将来像

（1）荒川区のこれからを考える：将来像の基本的考え方

「あらかわの、これから」を考えるにあたっては、今の「あらかわ」にある問題の発見・解決を考えることもさることながら、50年後、100年後の社会全体の姿を考え、その中での「あらかわ」の役割・姿を考える、ということもまた、必要である。

こう考えていくことで将来、「首都圏から、日本から、アジアから、世界から」求められ、また、「首都圏から、日本から、アジアから、世界から」人が集まる「あらかわ」になれる。また、そうなるべく施策や事業を進め、きちんと「首都圏の、日本の、アジアの、世界の」人々の「受け皿」になれる「あらかわ」を実現する必要がある。

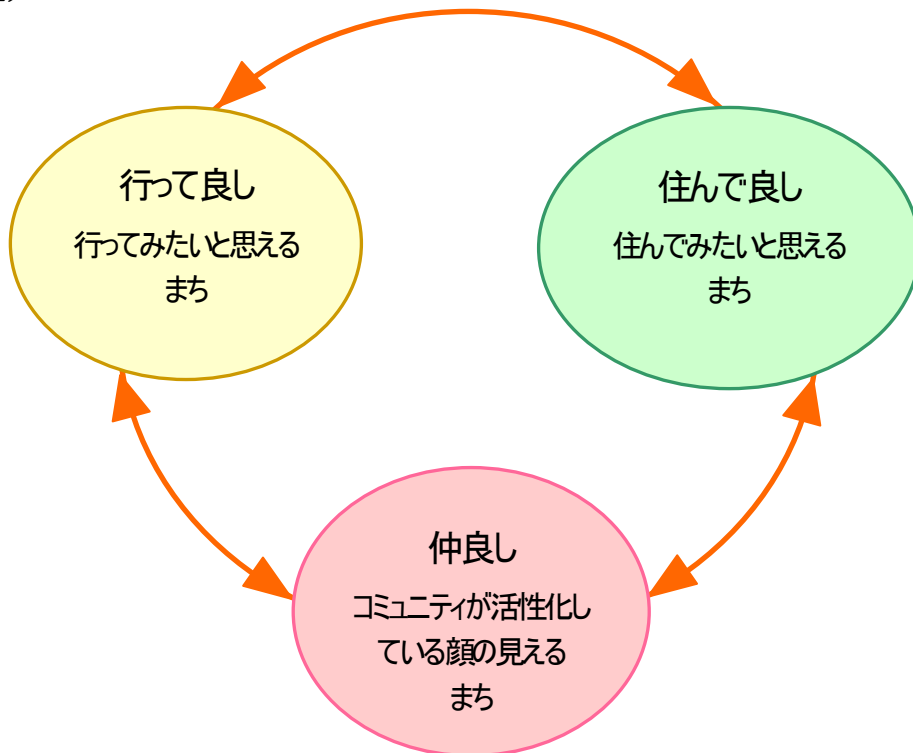
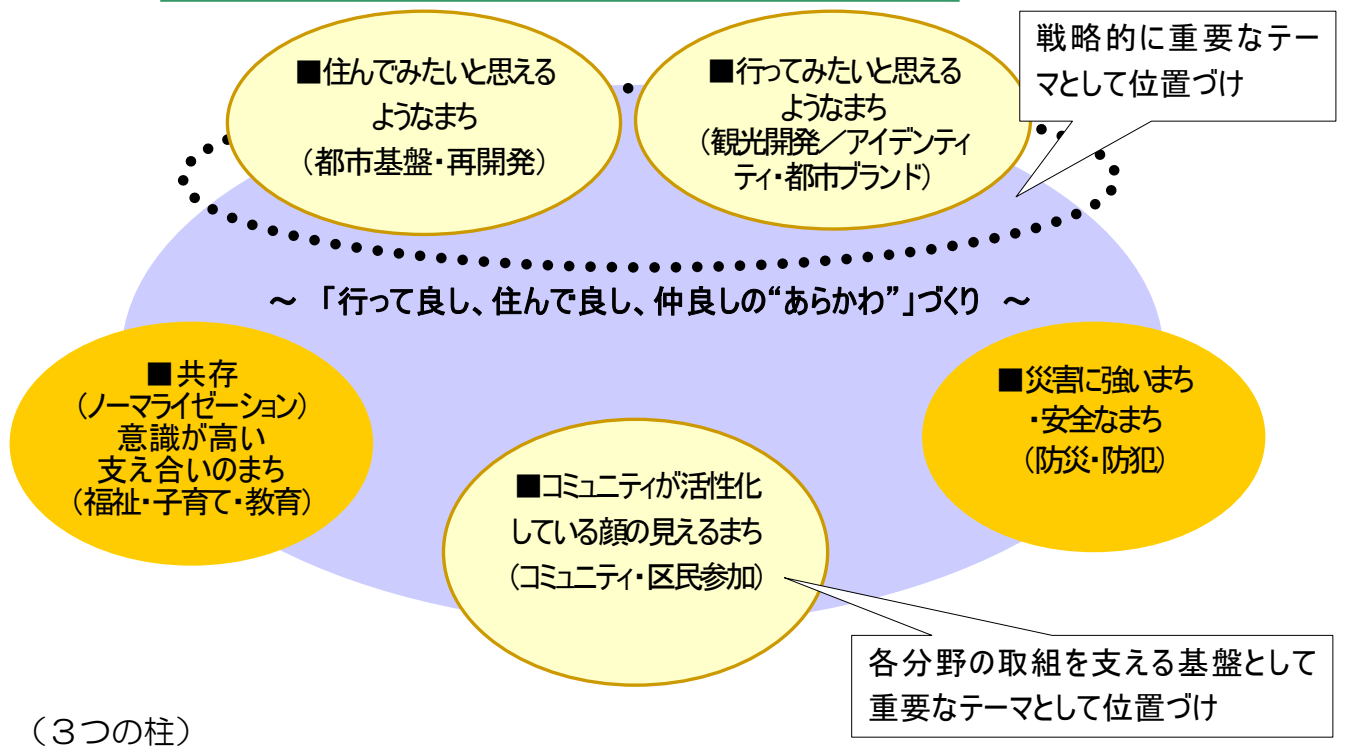
（2）荒川区の将来像

（将来像）

「行ってみたい、住んでみたい、顔の見える“あらかわ”」に向けて

訪れる人が荒川ならではの体験を満喫し、住む人が安心して快適に暮らせるような“あらかわ”を、多様な人と人との触れ合いを通して実現する。

行ってみたい、住んでみたい、顔の見える“あらかわ”



- ・ 荒川区の広域的な立地ポテンシャルを最大限に活かすとともに、再開発をまちづくりの契機として捉え、来街環境、居住環境の整備を総合的・計画的に進めることが重要である。
- ・ 様々な取り組みを、多様な主体が協力して展開していくために、荒川ならではのコミュニティの維持と充実を図っていく必要がある。

2. 分野別のまちづくり方向

(1) 行ってみたいと思えるようなまち（観光開発／アイデンティティ・都市ブランド）

◆基本的な考え方

- 荒川区の売りとなる、よりインパクトの高い特色・特徴づくりに向け、歴史文化資源などの活用を図るとともに、対外的なPRの充実を図る

◆対応の方向例

- 日暮里駅の観光基点化
- 下町文化と東アジア文化を体感できるまちづくり 等

(2) 住んでみたいと思えるようなまち（都市基盤・再開発）

◆基本的な考え方

- 住宅密集地域の再整備に地域住民の合意形成を図りつつ取り組んでいく必要がある
- 都心至近のベッドタウンとして新たな居住者を呼びこむとともに、従来のまちの雰囲気やイメージを残した整備や、大規模開発ゾーンと周辺ゾーンとのメリハリや調和に配慮したまちづくりが必要である
- 自転車空間のあり方を検討しつつ、人中心の道路網整備や公共交通中心の交通体系の整備が必要である

◆対応の方向例

- まちづくりルールの整備
- 道路網の再構築と生活道路の歩行者優先化
- 建造物等の省エネルギー化 等

(3) 災害に強いまち・安全なまち（防災・防犯）

◆基本的な考え方

- 災害に強いまちの実現に向け、都市環境の改善などハード面の取り組みや、災害時の連絡や復旧体制の整備などのソフト面の取り組みを進める必要がある
- 犯罪のない安全なまちの実現に向け、区民、学校、行政などが連携し、地域ぐるみの取組を進める必要がある
- コミュニティを強くしていくことがセキュリティの強化につながる

◆対応の方向例

- 木造密集市街地の改善
- 自治会・町会を軸とした防災・防犯コミュニティの形成
- 参加者が楽しめるイベントを訓練に取り入れる等

(4) 共存（ノーマライゼーション）意識が高い支え合いのまち（福祉・子育て・教育）

◆基本的な考え方

- 障がい者や高齢者をはじめ、だれもがいきいきと暮らせるような地域社会づくりが必要である
- 子どもの頃からの教育を充実するとともに、子どもと高齢者など、多様な交流の場をつくっていく必要がある
- 再開発で人口増加が予想される中で子育てや教育環境を充実する必要がある

◆対応の方向例

- 独居老人の安否確認体制やお年寄・障がい者情報の自治会等での共有
- 子どもと高齢者が日常的に気軽に交流できる施設の整備 等

(5) コミュニティが活性化しているまち（コミュニティ・区民参加）

◆基本的な考え方

- お互いの顔が見え、地域の課題解決のために相互に支え合い協力し合えるような地域社会の実現に向け、自治会・町会活動をはじめ、各種ボランティア活動、世代間交流など、多様なコミュニティを形成していく必要がある

◆対応の方向例

- グループホームや学校などを活用した日常的な世代間交流の場づくり
- 自治会・町会情報の提供による参加者拡大
- 趣味や文化活動などを含めたテーマ型コミュニティ活動の支援 等

3. 基本構想の実現に向けた展望と課題

(1) 基本的考え方

<基本構想の意義と役割>

区政の憲法（基本理念）
区政のビジョンと戦略構想
区政全体の課題設定（アジェンダ・セッティング）及び政策評価基準（※）
※荒川区政のベンチマークとして機能

<基本構想の実現に向けた課題>

区側の課題

- ・荒川区の改善には区だけでは限界→区民とのパートナーシップが必要
- ・区民の意見を反映させるための取り組みが必要
- ・区政の透明性と健全性の確保が必要

区民の課題

- ・地域の責任ある主体としてコミュニティへの参画が必要
- ・区政の透明性とニーズの反映に向けた政策への関与が必要

地域の課題

- ・共存の実現、コミュニティの再生
- ・地域ぐるみで子どもの教育、学校の安全づくりを推進する
- ・災害に強い、犯罪のない安全まちをつくる

※区あるいは区民単独では実現困難な課題も多い。

各主体の役割分担の検討

・区、区民、地域など、課題解決に向けた各々の主体の役割分担を検討していく必要がある。

(2) 区民と区との協働の推進

区民と区とが相互に理解を深めながら、各々の役割を果たしていく、協働の充実を図る。

協働の推進に向けた提案

協働の推進に向けた基本方向

- ①目標の明確化と共有
- ②コミュニケーションの場と機会づくり
- ③区の基礎体力としてのコミュニティの充実
- ④モデルプロジェクトづくり

協働のツール及びプロセス（例）

問題発見と意識醸成

参加の拡大

合意形成

実践への展開

(3) 情報発信の充実

荒川区の存在感を高める情報発信活動を充実

荒川区区政改革懇談会

瑠璃グループ 提言書（概要版）

はじめに

瑠璃グループは30歳代から40歳代のメンバーが多い、自営業の経営者などが集まっているグループである。

荒川生まれの住民として、この地の実家を継いだ経営者として、また区の支援を受けたベンチャー起業家として、それぞれの立場、経験から区に住む、働くことの見解を出し合い、これからの区の望ましい姿とその実現への方向について議論を重ねてきた。

【荒川区の課題】

- ・瑠璃グループでは、荒川区について、「派手さはなくあまり知られていないが、得がたいコミュニティなどがあって住みやすい。」と評価している。一方でコミュニティのネットワークが高齢化、新住民の流入、人々の意識の変化により弱まっており、福祉、防災面で課題となっている。また全般に荒川区はPR下手で、そのために産業や街の魅力が高まらなかったり、行政と住民のギャップがあったりする点も課題だと考えた。

【荒川区を変えるキーワード】

- ・グループでは、コミュニティや住みやすさの源を考えるうち、「粋（いき）」という言葉にたどり着いた。辞書によると「気持ちや身なりのさっぱりとあかぬけしていて、色気がある。人情の表裏に通じる。」の意。さらに、行き過ぎると気障、粋でなくなると野暮になると言われる。
- ・もともと荒川区にはこうした精神が根付いている。「地味だけときらりと光るところがある。肩で風は切っていないが、頼まれたらいやと言えない。」もし住み働く人の認識や心のルールが変われば、街の活力が変わってくるのではないか。それなら荒川区はこの「イキ」の魅力でいこう、とグループでは一致した。

【イキ！な荒川区プラン】

- ・「粋（イキ）」に関連して、荒川区の生活全体をいろいろな「イキ」で表わし、実現に向けた方向付けを以下4つの分野で検討した。
 - ① 域（防犯・防災）「地域のつながりで安心して暮らす」
 - ② 生（生活、福祉、環境）「人の心に触れて生活する」
 - ③ 活（産業）「知恵と技を活かす」
 - ④ 憩（芸能、文化、余暇）「憩いの場所としての荒川」
 - ⑤ 粋（ライフスタイル）「下町らしい粋なスタイルで暮らす」
- ・グループでは、これらがばらばらに実施されるのではなく、連携したトータルな施策とすることで波及効果があらわれると考えている。

イキ！な荒川区プラン

イキ！な
荒川区へ
イキたい！
荒川区へ

域
(イキ)

防犯・防災

「**地域**のつながりで安心して暮らす」

生
(イキ)

生活、福祉、環境

「人の心に触れて**生活**する」

活
(イキ)

産業

「知恵と技を**活**かす」

憩
(イキ)

芸能、文化、余暇

「**憩**いの場所としての荒川」

粋
(イキ)

ライフスタイル

「下町らしい**粋**なスタイルで暮らす」

以下はその施策例である。

①域（防犯・防災）

- ・ JR 線のガード下のライトアップなど、危険を誘発する暗闇をなくす明るさ環境の整備。
- ・ 祖父母世代が参加する、子供の交通・防犯面の安全確保。
- ・ 防犯上何かあった際、かけ込める家の普及。
- ・ 雨水を利用するシステムを導入して、かつ親水公園等に利用して子供の遊び場をつくる
- ・ 「荒川区おんぶ隊（注）」の仕組みの普及。

（注）荒川区おんぶ隊：区民が登録して、災害時に 1 人暮らしなどの体が不自由な高齢者や障がい者をおんぶして救助する。

②生（生活、福祉、環境）

- ・ マンションやアパートの新しい住民を含めた町会の形成。
- ・ 町会のネットワーク、行政による一人暮らしのお年寄りの把握と声かけ活動。
- ・ 首都大学東京荒川キャンパス（医療・福祉学）を中心に小、中、高校の授業の一部を大学で行うプログラムをつくる。
- ・ 学校によい先生を誘導できる異動の仕組みを検討する。
- ・ 福祉体験広場（北区）や荒川自然公園、尾久の原公園、汐入公園等を使用した学外学習の実施。
- ・ 子育て支援所、子供の遊び場、託児、宅老所の増設。
- ・ 寺社や銭湯の複合用途としてデイサービス化の支援をする。
- ・ 商店街の空き店舗等を活用した小規模多機能な民間資本のデイケアホームの設立支援をする。
- ・ 交通のバリアに関して、住民の投票等により早期改善する場所を決める。
- ・ 世代別区報の発行、区報のメールマガジン化（注）などを推進する。

（注）メールマガジン：メールマガジンは、発信者が定期的にメールで情報を流し、読みたい人が講読するメールの配信の一形態である。

③活（産業）

- ・ 「(仮) 荒川バウハウス (注)」(工芸デザイン学校) の設立 (区内には「荒川マイスター」をはじめとする優れた技能を持っている職人が多く、中には区外の美術大学で講師として迎えられている方もいる。そうした方々を講師として迎え学校で教べんをとってもらい、それぞれ工房を設け新しい製品をつくり、その収益で学校運営や後継者育成を図る。地域の工場との連携を図り、技術、人的交流の核となる)。
- ・ 町工場再生の手立ての一つとして、「アトリエ (工房) 化計画」を考える。これは高い技術を持つ職人とそのサポートをするデザイナーをつけ、そのコラボレーションの上、既存の枠組にない新しい有益な製品をつくり、新しい魅力を作り上げる。このプロジェクトは上記とも連動する。
- ・ 「(仮) 荒川 WALKER」 発刊などを推進。
- ・ 区内学校で、伝統産業の体験授業等を取り入れる。
- ・ 粋な商慣習を学ぶ社会人向け研修会の実施。
- ・ 商店等へのインターン授業、実験店舗の試みをする。
- ・ 支援企業や個人からの融資、人的支援システムをつくる。
- ・ 専門書の充実した大きい書店の誘致。

(注) バウハウス：ドイツで 1919 年に設立 (現在は閉校)。主として建築家や芸術家が、職人の技術的、芸術的価値に着目し、その技能と新しいデザイン思想を融合させ、機能性と美を追求した。多くのマイスターを輩出し、現代のデザイン潮流にも影響を与えている。

④憩（芸能、文化、余暇）

- ・ 3 区 (荒川、文京、台東) の芸能・文化伝統を合わせた観光ルートの開発と、地域バスの連携、ミニツアーの実施。
- ・ 落語講座の開催、地元のお寺を借り怪談話の落語会等を開催。
- ・ TV ドラマの撮影場所になったスポット (場所) を PR して人を呼び込む。
- ・ 地元の知る人ぞ知るおいしい店などを紹介。
- ・ あらかわ遊園とその周辺を「テーマパーク化」し、都電駅～遊園の一方通行でなく、地域に回遊性を導入する。例えば、日暮里の駄菓子屋横丁のようなものをこの地域に移したり、下町グルメ (もんじゃ、お好み焼き、あんみつなど) ストリートを形成したり魅力をさらに高める。また、遊園から墨田川までに続く大正時代の旧レンガ工場跡地のレンガ塀の修景事業による「歴史の散歩道」としての整備もこの一環として行う
- ・ 「第 2 江戸東京たてももの園」(注) の創設 [再開発等で使われなくなる伝統木造家屋 (商店、銭湯、料亭、蔵などの集合体)]。
- ・ 童話 (メルヘン) 文学コンクール、和楽器 (琴、三味線など) の定期演奏会などの関連行事の開催。

- ・ 南千住地区では、汐入地区の平成の近代的な街づくりに始まり、南千住駅を経て、コッ通りを「昭和レトロなまちづくり」をコンセプトにし、千住大橋を経て、北千住の松尾芭蕉や蔵のコンセプトとリンクさせる。
- ・ 隅田川を環境文化の学習の場にし、「川の手」の文化の向上を図る。

(注)東京たてもの園：東京都墨田区の JR 両国駅前にある江戸東京博物館の分館として、東京都小金井市の都立小金井公園内に設置された野外博物館である。

⑤ 粋（ライフスタイル）

- ・ 日暮里繊維問屋街で、個人的に裁縫をしたいがミシンのない人や子供の入学・入園準備をひかえた父母を対象にした裁縫教室の開催。
- ・ 若者向け和装教室の開催。
- ・ 将来の日暮里駅近辺の発展から、その周辺地域の活性化を考え、工場跡地などの広い後背地の活用を考える。
- ・ 服飾系、美容・理容系の専門学校を多数誘致する。
- ・ SOHO支援事業を展開する（地元企業・職人・デザイナーとのコラボレーションの促進）。

荒川区区政改革懇談会

紫苑グループ 提言書（概要版）

はじめに

この提言は、主に50～60歳代の自営の経営者から構成されている紫苑グループが、昨年7月から8回にわたって区政改革懇談会において議論を重ねてきたものである。長年荒川区に住み慣れた経験や愛着心、そして豊富な人生経験をもとに、荒川区の現状や問題点、課題、対策案まで、できるだけ具体的な議論を重ねてきた。

1. 荒川区の取り組むべき課題

重要課題1：財政基盤の強化・確立

近年の自治体を取り巻く環境を踏まえると、当面の現実的な課題は財政基盤の強化・確立（国・地方を含めた財政的な危機状況をいかに脱出するか）である。

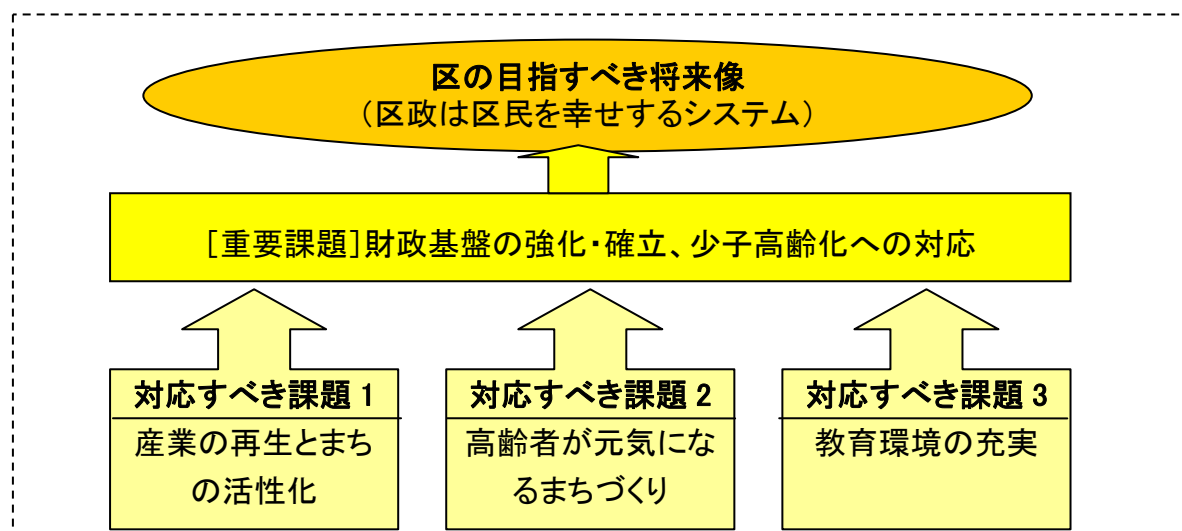
重要課題2：少子高齢化への対応

荒川区の少子高齢化の現象は23区の中でも顕著である。今後、少子高齢化がますます進展し、区財政や区民生活へ多大な影響を与えることが予想される。

●対応すべき課題

- ✓ 財政基盤の強化を図るためには、歳入の増加（自主財源の確保）と歳出の抑制が不可欠である。歳入を増やすためには、産業の再生やまちの活性化が不可欠である。
- ✓ 高齢化社会へ対応するためには、高齢者が元気になり、活躍できるまちになることが必要である。また、元気な高齢者が増えることは、区の歳出抑制にも貢献する。
- ✓ 少子化に対応するためには、こどもを産めるまち、安心して育てられるまち、豊かな人材を育てられるまちとなるための、教育環境の充実が重要である。

※紫苑グループにおいては、総花的に提案をするよりも、上記3課題が特に対応すべき重要な課題と考え、これらをもとに具体的な検討を行なった。



2. 産業の再生とまちの活性化のための取り組み方針と対策案

取り組み方針	対 策 案	時期
荒川区ブランドの確立	◎ブランド戦略機関の発足	短期
	ニポカジの見直し	短期
	OPR 戦略の徹底	短期 ～中期
回遊できるまちづくり	○現有施設の有効活用 (あらかわ遊園など)	短期
	◎区外から人を呼び込むための仕 掛けづくり	短期
	◎区外からの人を回遊させるため の仕掛けづくり	短期
	川や川辺を活用した回遊のあり 方の検討	短期 ～中期
交通体系の整備	◎回遊を想定した交通網の再構 築・体系化	短期 ～長期
	近隣区との連携	短期 ～中期
産業の振興	○強みを活かした地場産業づくり	中期
	先端産業の誘致	短期 ～長期
	◎産業のネットワーク化	短期 ～中期

◎：最優先
○：優先

3. 高齢者が元気になるまちづくりのための取り組み方針と対策案

取り組み方針	対策案	時期
高齢者の社会参加の促進	○高齢者が参加できるボランティア、NPO組織の充実	短期～中期
	○高齢者雇用促進に向けた諸制度や基盤の充実	短期
	高齢者の社会参加ビジネスの推進	中期～長期
町会・コミュニティ機能の再構築	◎町会を活用した行政業務のアウトソーシングの推進	短期
	○防災・福祉等横断的に対応できる町会機能の確立	短期
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> ◎：最優先 ○：優先 </div>		

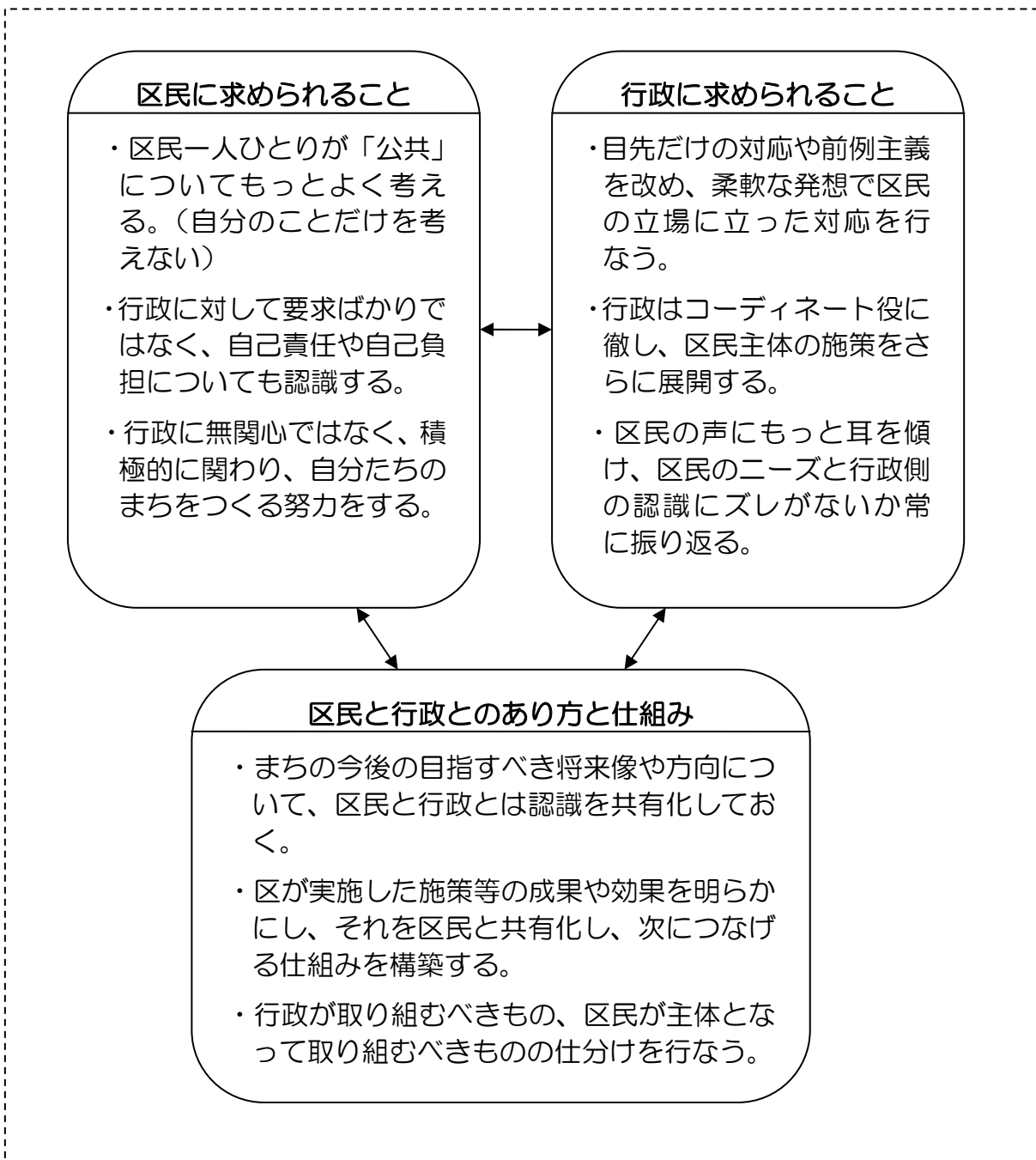
4. 教育環境の充実のための取り組み方針と対策案

取り組み方針	対策案	時期
学力の向上 豊かな心の育成	◎特徴のある学校づくり	短期
	○学校（校長）への経営的視点の導入	短期～中期
教員の資質の向上	◎教員評価システムの導入	短期～中期
	○教員採用基準・方法の見直し	短期～中期
地域教育・家庭教育の充実	◎地域と一体となった教育システムの導入	短期～中期
	家庭教育の見直しのための地域連携の推進、保護者への教育支援	中期～長期
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> ◎：最優先 ○：優先 </div>		

5. 対策を実効的にするために

紫苑グループは半年以上の討議を経て、以上のような対策案をとりまとめたが、これらの案が、単なる提案で終わるのではなく、今後さらなる検討を経て、具体的な施策等に結びついていくことが重要であると我々は考えている。

そのためには、以下のような行政と区民の今後のあり方、意識改革などが重要であると考えます。



荒川区区政改革懇談会

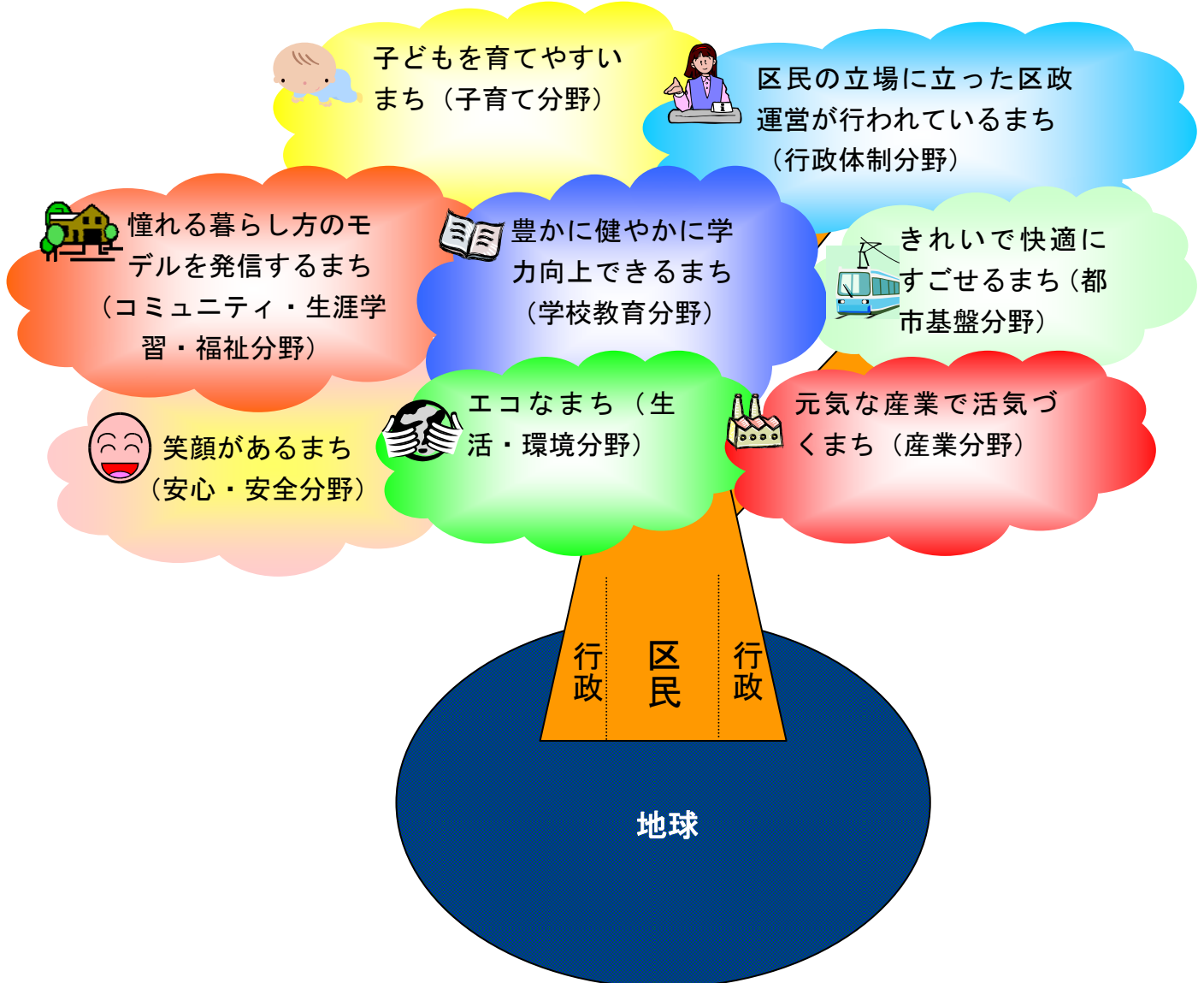
茜グループ 提言書（概要版）

はじめに

茜グループは過去・現在に区内で子育てをしている（していた）人が中心のグループである。討議では、メンバーの特性を活かし、子育てや教育など区内で普段生活している視点から活発な議論を行った。

茜グループの荒川区の将来像は区を一本の木にたとえて考えた。その木は、中央に主役であるべき「区民」が、両端を、さまざまな場面で生活を支える「行政」で示し、区民と行政とが一心同体となり、荒川区をつくりあげていることをたとえて示している。そしてその荒川区の木が地球に根を下ろし、地球と共生しながら、様々な分野で「花」を咲かせていけたら良い（あるべきまちの姿を実現させていけたら良い）というものである。

こんなまちの姿であるべき！！荒川区の将来像



咲かせていくべき花（分野別あるべきまちの姿）①



子どもを育てやすいまち（子育て分野）

- ◎ 社会全体で子どもを育てるという意識がある
- ◎ 子供を安心して預けられる体制がある
- ◎ 子育てへの経済的な支援がある
- ◎ 子育ての情報が得やすく、「親になる」ための教育体制が整っている
- ◎ 子どもの医療体制が整っている

豊かに健やかに学力向上できるまち （学校教育分野）



- ◎ 人間としての基本的なことが学べる教育環境が整っている
- ◎ 公立校の教育力が高く、越境するなら「荒川区の学校へ」と思われるようになっている
- ◎ 学校（行政）と地域・保護者との間で常にコミュニケーションがとられている。
- ◎ 学びやすい施設環境が整っている



憧れる暮らし方のモデルを発信するまち（コミュニティ・生涯学習・福祉分野）

- ◎ 気軽に近所づきあいができ、世代間の出会いの場がある
- ◎ 趣味と地域活動をつなげるしくみがある
- ◎ 区民の中でボランティア意識が根付いている
- ◎ 子どもがのびのびと遊ぶことができる
- ◎ 高齢者が生き生きと外に出て活動している

笑顔のあるまち（安心・安全分野）



- ◎ 地域コミュニティを活かした防災・防犯体制がある
- ◎ 防災・防犯に関する情報が区と区民との間で共有できている

咲かせていくべき花（分野別あるべきまちの姿）②

区民の立場に立った信頼できる区政運営が行われるまち（行政体制分野）



- ④ 区民との連携が促進されている
- ④ 行政が区民志向で運営されている

きれいで快適に過ごせるまち（都市基盤分野）



- ④ 生活に便利なまちになっている
- ④ 一貫した都市計画がなされている



気ある産業で活気づくまち（産業分野）

- ④ 環境を起点としたモノづくりのまちとして賑わっている
- ④ 新しい産業や雇用を生み出す源がある
- ④ 人の集まるスポットがある
- ④ 区内の伝統工芸が継承・保存されている

エコなまち（生活・環境分野）



- ④ きれいなまちになっている
- ④ 循環型社会への区民の意識が高くなっている

荒川区区政改革懇談会

萌黄グループ 提言書（概要版）

はじめに

萌黄グループは、子育てを終えた女性だけで編成するメンバーであり、女性あるいは主婦の視点に立って、荒川区を住みやすいまちにしたいという思いからこれまで9回にわたって議論してきた。

この提言は、メンバーの性格上、主に「安全で清潔な住みよいまちづくり」について、区政のあるべき姿やその方向性を取りまとめている。

- ・いざというときに地域住民が協力し合う
- ・歩道の拡幅と電柱の地中化
- ・生活道路の整備

安全なまちづくり

- ・美しい街並み、みどりが多くゴミのないまち
- ・屋上も含む緑化の推進
- ・雨水利用を進める
- ・ソフト（マナー）・ハード（駐輪場）の自転車対策

生活環境の整備

荒川区の目指すべき将来像 — 私たちの4つの夢 —

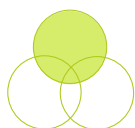
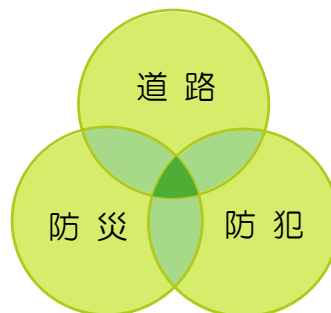
子どもを育てやすいまちづくり

- ・経済的支援策の充実
- ・教育環境の整備
- ・働きやすく安心して子育てができる環境づくり

日本の玄関になる荒川区

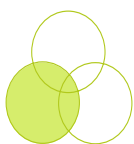
- ・日暮里駅周辺の再開発事業に観光を取り込む
- ・日暮里駅周辺に外国人向けのホテルを誘致
- ・繊維街を活用
- ・区内をアート回廊として整備
- ・まちづくりの観点から観光客を受け入れる体制を整備
- ・南千住のララテラスにコミュニティバスのバス停をつくる
- ・区内を散策できるように、歩道や商店街を総合的に整備

安全なまちづくり



《道 路》

- 着実に土地区画整理事業などの都市計画を推進するとともに、道路の整備・拡幅にあたっては、地域の開発事業に合わせて実施する



《防 災》

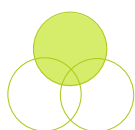
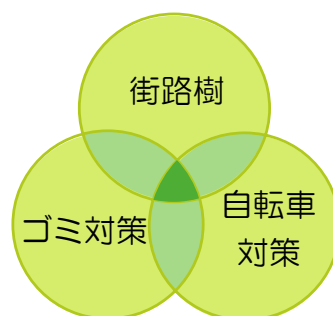
- コミュニティFM局の開設や携帯電話を活用した新たなしくみづくり
- 授業の中で子どもたちの防災意識を高める
- 防災6か条を作成し普及させる
 - （火の始末、逃げ道の確保、非常持ち出し袋の準備、家族が離ればなれになった時の話し合い、避難場所の確認、住まいの防災総点検）
- 協議会を設置し、どこで医療が受けられるか、また、一人で避難できない人の把握方法などを検討する
- 災害時のマンション対策を検討する
- 万一の災害時に万全な対応ができる体制を確立する
- 無関心な人に対していかに関心を持ってもらうか検討する
- ペット用の避難場所をどうするか検討する



《防 犯》

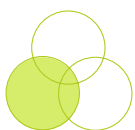
- 近所とのつきあいを深める
- 空き巣の被害にあわないよう自助努力に努める
- 地域ぐるみで、犯罪の被害を未然に防止する対策を検討する

生活環境の整備



《街路樹》

- 街路樹を増やし魅力あるみどりの景観を形成する
- 定期的に剪定し、運転手からの見通しや安全を確保する
- 区民参加による花のあるまちづくりを進める



《ゴミ対策》

- ゴミの収集は、できるだけ午前中に行う
- 町会単位でゴミを減量化するとともに、ゴミ箱を設置する
- 区の助成でコンポストの設置を奨励し、ゴミの減量化と肥料などへの資源化を図る
- ゴミの分別を更に細分化し、ゴミを減量化する
- パッケージの開発や過剰包装の改善など、区が事業者に働きかける
- ゴミを減量化するための工夫や方法を公募する
- ポイント制を導入するなど地域ぐるみで牛乳パックを回収する



《自転車対策》

- 使い勝手の良い駐輪場（有料も可）を整備する
- シルバー人材センターの高齢者に放置自転車の取り締まりの権限を与える
- 協議会を設置し、抜本的な駐輪場整備のあり方を検討する

荒川区区政改革懇談会

山吹グループ 提言書（概要版）

はじめに

この提言は、10名で構成された山吹グループメンバーが期待する区政改革の方向を、提言として取りまとめたものである。

グループメンバーは、民間企業や公的機関などで、長い間仕事や活動を通して培ってきた経験や知識を、来るべき新たな時代の区政に少しでも反映し、荒川区をすべての区民にとって住みやすいまちにしたいという熱い思いを持ちながら、議論を重ねてきた。

この提言は、「産業・経済」「教育・青少年育成」「障がい児・者福祉」「まちづくり」「環境」「コミュニティ」「区政」及び「基本構想実現に向けて」の、区政に関する8分野のあるべき姿や、その実現のための方向性をとりまとめている。

このうち最も重要なことは、「基本構想を実現するための仕組みをつくり、実現に向けた取り組みを行うことである」が、メンバーの一致した共通の認識である。

1. 荒川区の現状

（1）産業・経済

①ものづくり・製造業

伝統的な工芸技術を持つ職人が多く住む『ものづくりのまち』であるが、その存在は区内外に広く知られておらず、後継者も不足するなど、活力が失われつつある。

②観光（文化財の保全などの観点も含めて）

現在では観光の目玉はないが、埋もれた資源も含めて名所・旧跡は多く、整備やPRを進めることにより、観光資源となる可能性がある

（2）教育・青少年育成

一部児童・生徒により、正常な授業に支障のあるケースが見られるとともに、青少年犯罪の増加・低年齢化・凶悪化の傾向が拡大している。

（3）障がい児・者福祉

自立したいと考える障がい児・者が増え、小学校で障がいに対する教育が実施されるなど障がい児・者を取り巻く環境は変わりつつあるが、不十分な状態である。

（4）まちづくり

再開発やマンション建設などにより下町風情がなくなりつつあり、安全に配慮しながら、新たなまちづくりと下町風情が調和した個性あるまちづくりを進める必要がある。

（5）環境

排気ガスが原因と考えられる喘息患者が増加しており、またゴミのリサイクル運動が徹底していない。

(6) コミュニティ

マンションなどの増加により区外からの転入者が増えているが、居住歴の長い区民とのコミュニティが形成できないケースが増えている

(7) 区政

区民の声を反映する仕組み、十分な情報開示や効率的な行政運営ができていないと思われる点があり、区政改革の明確なイメージが見えない。

(8) 基本構想実現に向けて

区民が参加しながら、構想・計画と実行評価を予算と連動して行う仕組みを構築して、基本構想を絵に描いたもちとしない、実現のための仕組みが最も重要である。

2. 荒川区の目指すべき将来像

分野別の将来像を次の通り提言する

荒川区の目指すべき将来像

産業
経済

- 匠の心を伝承するものづくりのまち
- 都市型観光産業を育成するまち

教育・青少年の
健全育成

- 魅力的で厳格な学校授業が行われ、健全な青少年が育つまち

障がい者福祉

- 障がいの有無に関わらず、すべての区民が安心して暮らせるまち

まちづくり

- 新たなまちづくりと江戸の下町風情が調和する、安全・安心で、快適な新しい息吹の感じられる美しいまち

環境

- 区民総ぐるみで環境先進区としての取り組みが展開されているまち

コミュニティ

- 居住年数や年齢などをこえて多様なコミュニティ活動が展開されているまち

区政

- より区民に開かれた区政が実現しているまち

基本構想の実現
に向けて

- 行政評価の仕組みが適正運営され、評価を行いながら基本構想の目標達成のための活動が進められているまち

3. 分野別のまちづくりの方向

(1) 産業・経済

①ものづくり・製造業

■「匠の心を伝承するものづくりのまち」実現のために

○匠の技術の継承と情報発信

- ・区外及び区民向け情報発信の強化、駅など交通結節点の公共空間の活用も含めた区外向け情報発信の強化、匠会館などの設置検討 など

○後継者の育成

- ・区産業・匠の技術などの情報発信により後継者候補の広域的誘導（二ト対策など） など

②観 光

■「都市型観光産業を育成するまち」実現のために

○目玉となる観光資源の発掘・整備

- ・隅田川や都電などの観光資源としての活用を検討、史跡や文化財の整備・発掘、工芸技術など産業の観光資源としての活用検討 など

○情報発信・PRの積極的展開

- ・駅など利用者の多い公共空間を活用したPR、区民相互の連携による資源の発掘とPR、歴史作家などを活用した区の歴史本の作成 など

(2) 教育・青少年の健全育成

■「魅力的で厳格な授業が行われ、健全な青少年が育つまち」実現のために

○魅力的で厳格な教育の実現と子供の基礎学力の向上

- ・基礎学力の向上を目指した教育内容の充実、民間人の経験やノウハウの活用、小中学校の選択制度の強化・維持 など

○青少年の行動に結びつく仕組みづくりと地域の指導力の強化

- ・親・子供・教員・教育委員会と地域の連携の強化、教育現場の声が届く教育委員会の実現と学校との連携強化、登校拒否・二ト問題などの早急な対応、社会ルールを教える機会の拡大強化 など

(3) 障がい児・者福祉

■「障がいの有無に関わらず、すべての区民が安心して暮らせるまち」実現のために

○全ての区民の意識改革

- ・障がい児・者の家族の相談の場・機会の拡大、区民のノーマライゼーション意識の醸成、障がい児・者自身の意識改革と、特に障がい児・者福祉と直接関わりを持っていない一般区民との交流拡大 など

○障がい児・者の地域社会への参加促進

- ・引きこもりがちな障がい児・者の地域社会への参画、雇用機会の拡大などによる障がい児・者の自立支援 など

(4) まちづくり

■「新たなまちづくりと江戸の下町風情が調和する、安全・安心で、快適な新しい息吹の感じられる美しいまち」実現のために

○古い町と再開発された町が調和した活力と魅力のまちづくり

- ・交通利便な地区における再開発の推進・江戸の面影を残す下町づくりと相互の調和、都電や隅田川を活かしたまちづくり など

○安全・安心・快適なまちの実現

- ・電線の地中化や狭い路地の環境整備など防災面も考慮した生活道路の整備拡充、防災都市宣言の実行とPR、安全で美しいまちづくり（まちの環境美化条例・自転車などの放置防止条例などの強化、区民の意識改革など）、住宅建設の際の緑化誘導など区内緑化の強化 など

○協働のまちづくり

- ・区民と行政が一体となった協働まちづくりの仕組みづくり など

(5) 環境

■「区民総ぐるみで環境先進区としての取り組みが展開されているまち」実現のために

○関係機関と連携した、大気汚染対策の強化

- ・大気汚染の現状の公表と国や都と連携した対策の強化、アイドリングストップ運動の推進、脱車社会の先進区としての取り組みと情報発信 など

○区民・企業総ぐるみのリサイクル運動の展開

- ・リサイクル運動の強化推進、温暖化やダイオキシン発生原因となるプラスチック類の完全リサイクル化の推進、集団回収事業の強化・全世帯化 など

(6) コミュニティ

■「居住年数や年齢層などをこえた多様なコミュニティ活動が展開されているまち」実現のために

○町内会活動を中心とした地域が一体となるための共通理解と協力体制の強化

- ・地域住民と新しい住民との交流の仕組みづくり、コミュニティに消極的な人を誘導する仕組みづくり、町内会と管理組合との連携の強化 など

○在住外国人との交流の拡大

- ・在住外国人への長期的にやさしい対応、生活情報提供などの継続的实施など

○ボランティア活動の支援強化

- ・ボランティア活動のしやすい環境づくり・拠点づくり、ボランティア活動拡大の盛り上げ、遊休施設や器具などのボランティア活動への開放 など

(7) 区政

■「より区民に開かれた区政が実現しているまち」実現のために

○区民参画の仕組みづくりと区民の意識改革

- ・行政計画などへの区民提言や区民主導の地域づくりを推進する仕組みづくり、区民意見の把握や反映のシステムづくり など

○区民への情報公開とPRの拡充

- ・積極的な情報公開とPRの拡充、多様な情報提供やPR手段の活用 など

○区政の効率的運営

- ・縦割り組織の改編 など
- 区民サービスの向上
 - ・相談室などの充実と迅速な対応 など
- 条例の有効活用
 - ・区民の条例に対する認知度向上、条例の罰則規定の付加と遵守の徹底 など

(8) 基本構想実現のために

- 「行政評価の仕組みが適正運営され、評価を行いながら基本構想の目標達成のための活動が進められているまち」実現のために
- 行政評価の仕組みづくり
 - ・計画と予算、実行、評価が連動した行政評価の仕組みづくり、区職員の評価を受ける意識と風土の醸成、区民意見の反映と評価ができる仕組みづくり(オンブズマンシステムや第三者機関の設置・運営など)、区民の意識改革 など

編集発行：荒川区総合企画部総務企画課
登録：(17)0066号